

地域材住宅の今後を考えるシンポジウム

地域工務店における 木材利用実態調査報告 2

～ 横架材への国産材利用を考える ～

2016年10月20日

一般社団法人JBN・全国工務店協会

国産材委員会 委員長

(株)山長商店 榎本 崇秀

3月の報告内容(抜粋版)

地域材住宅の今後を考えるシンポジウム

地域工務店における 木材利用実態調査報告

2016年3月1日

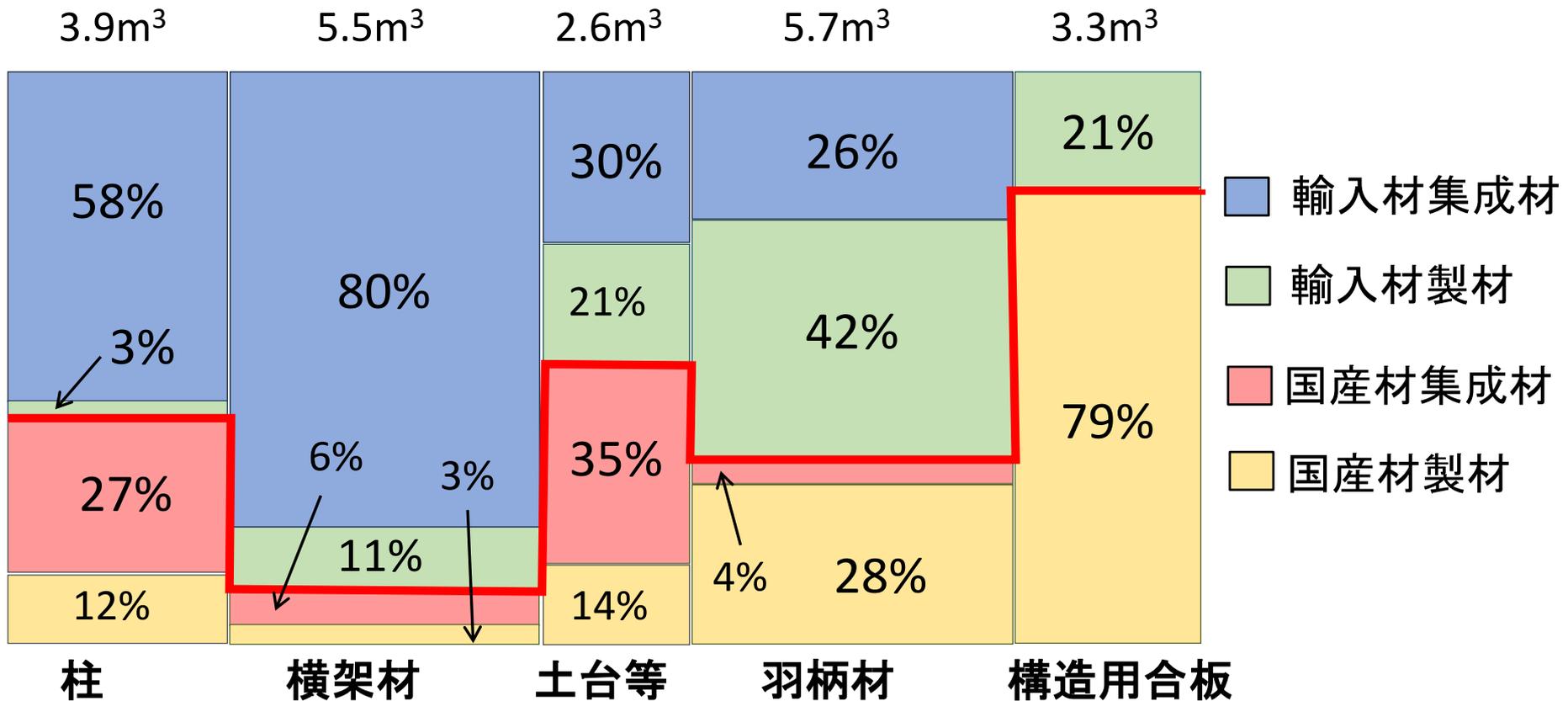
一般社団法人JBN・全国工務店協会

国産材委員会 委員長

(株)山長商店 榎本 崇秀

本調査の目的

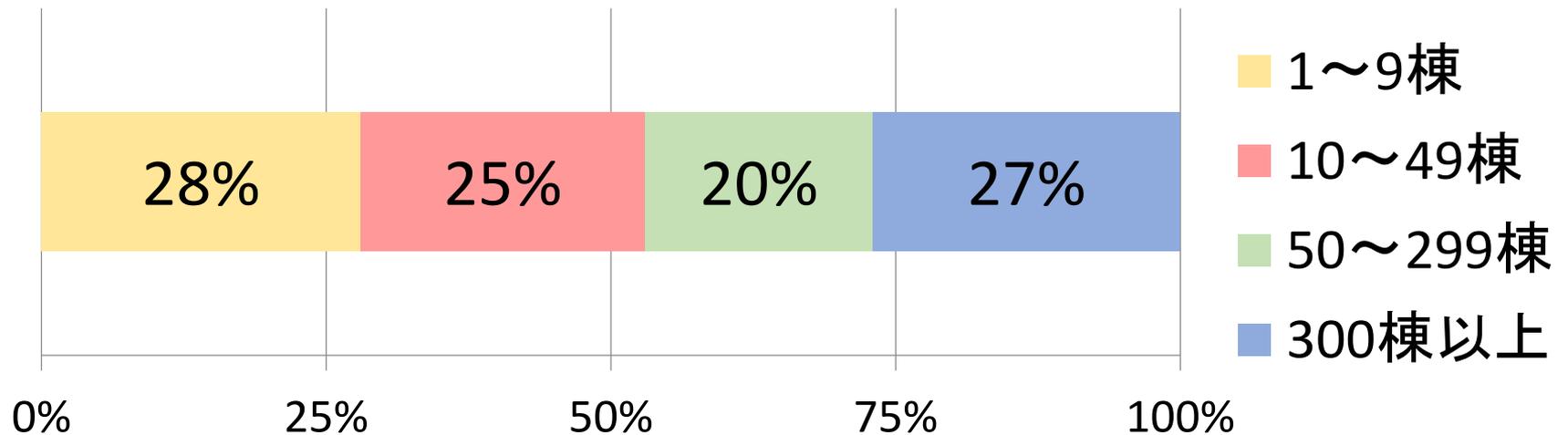
住宅分野における木材の利用状況は、大手・中堅住宅会社や、一部県での調査に限られていた



【出典：H26年度森林・林業白書／日本木造住宅産業協会（2013）】

本調査の目的

在来工法(戸建)では50棟／年未満の工務店等でシェア6割弱を占める

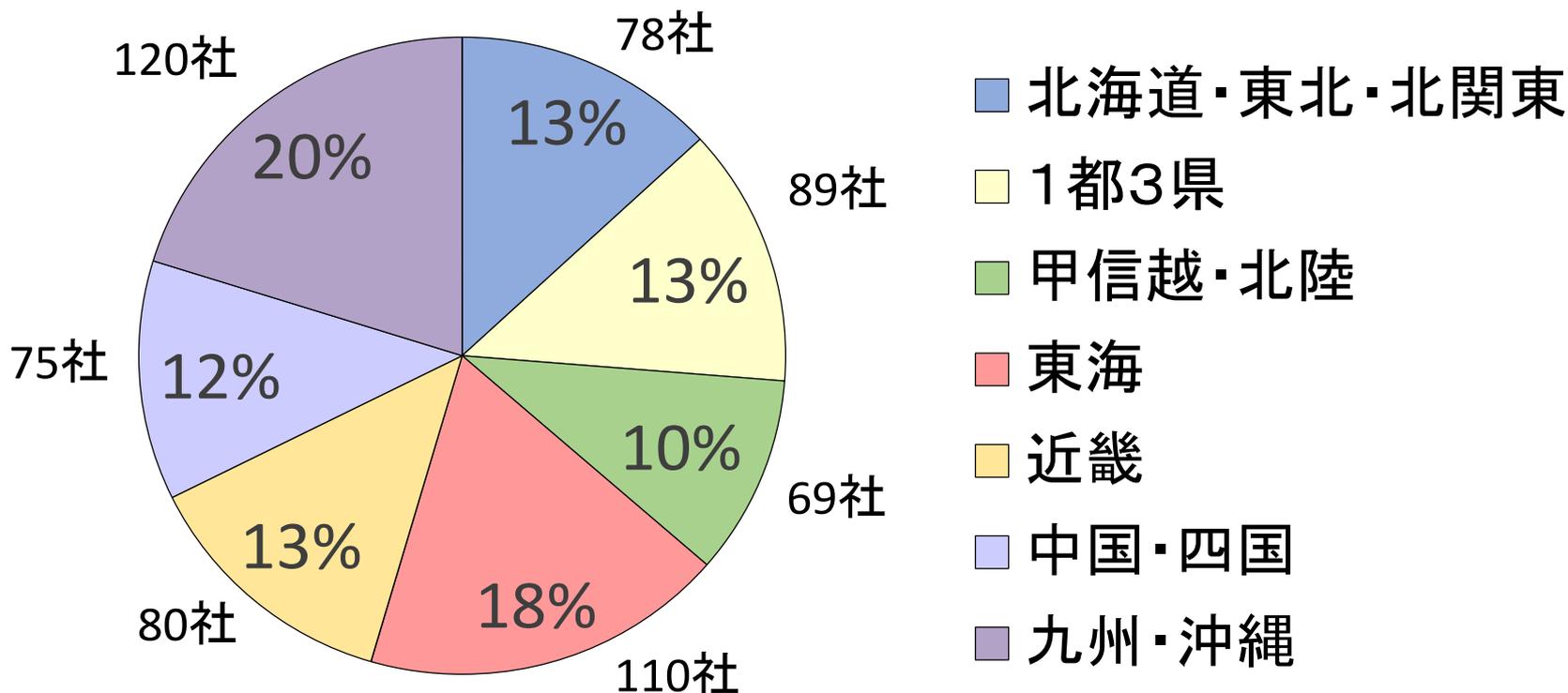


出典:国土交通省ホームページ「木造住宅の担い手の現状」

そのような地域工務店を対象にした木材利用実態調査を通して、国産ムク材の利用拡大のための課題を検討する

調査対象の概要（地域別回答分布）

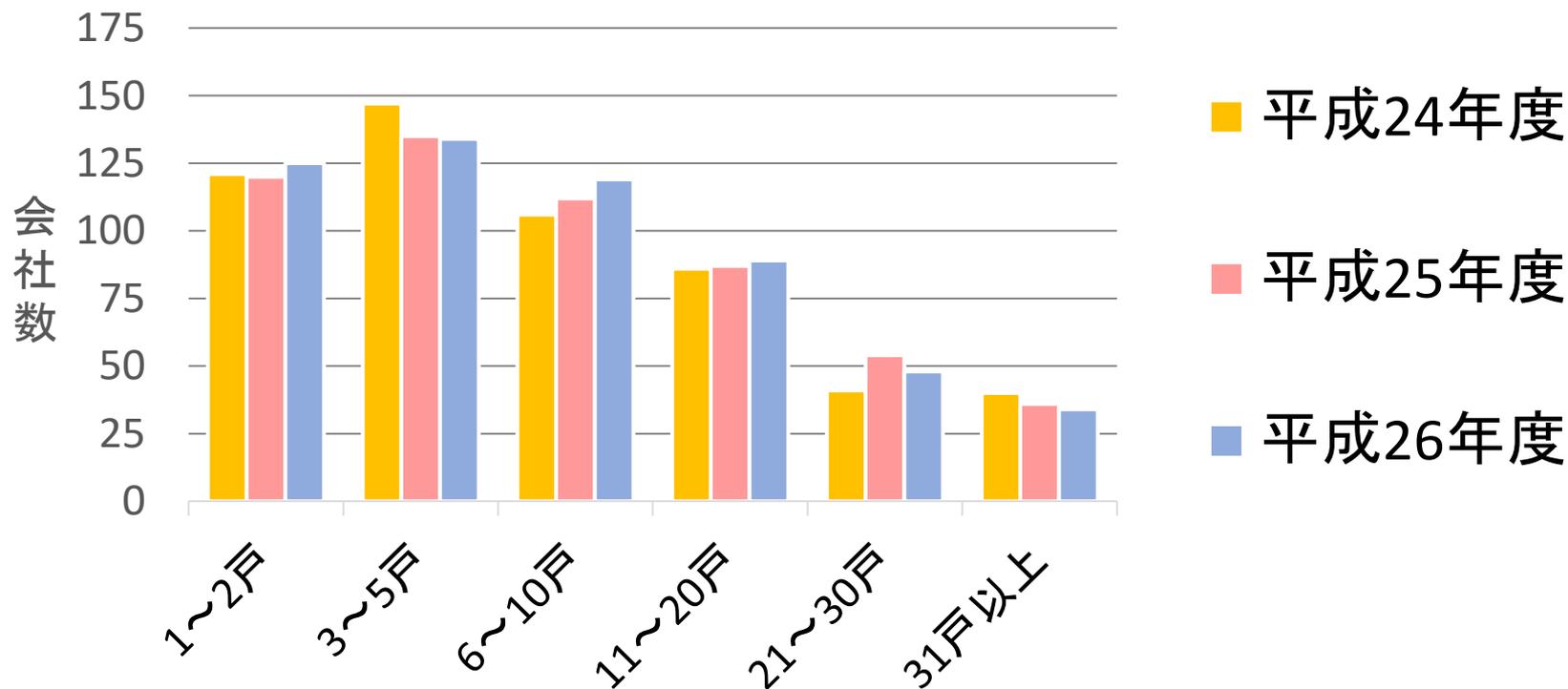
JBNと木青連会員2933社にアンケートを送付
うち621社より回答。回答率は21.2%



地域別回答数分布

調査対象の概要（建築実績）

建築実績が年間1～10戸の会社が69%
1～20戸の会社で85%を占める

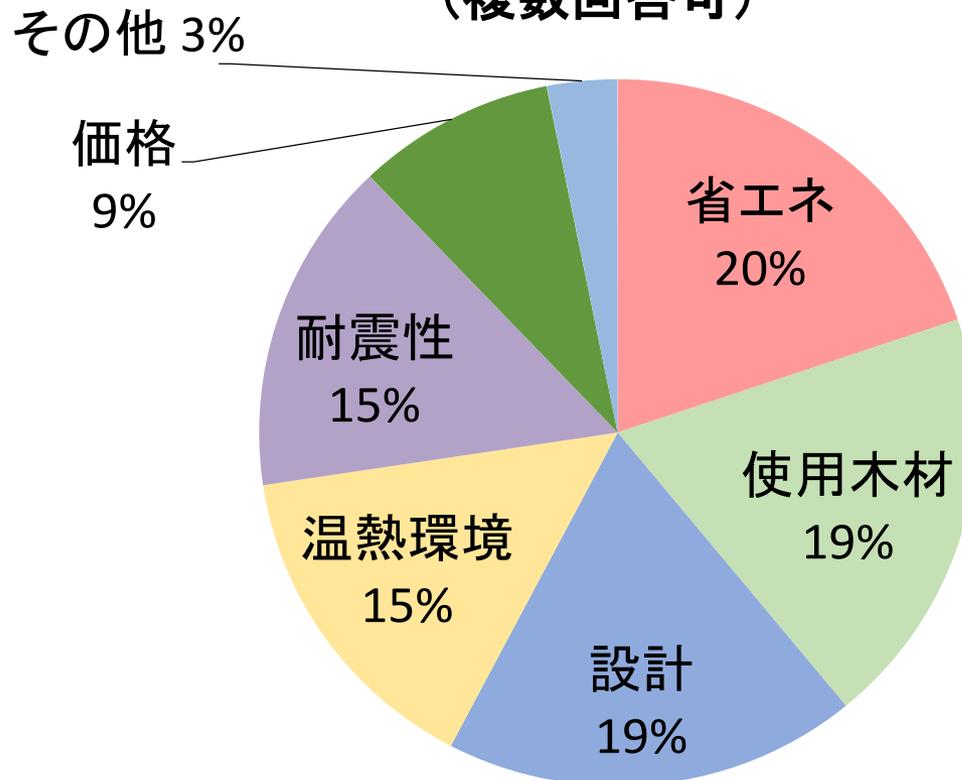


過去三年間の建築実績

供給する木造住宅のセールスポイント

「省エネ」「使用木材」「設計」がほぼ同数
「価格」を挙げた工務店は9%のみ

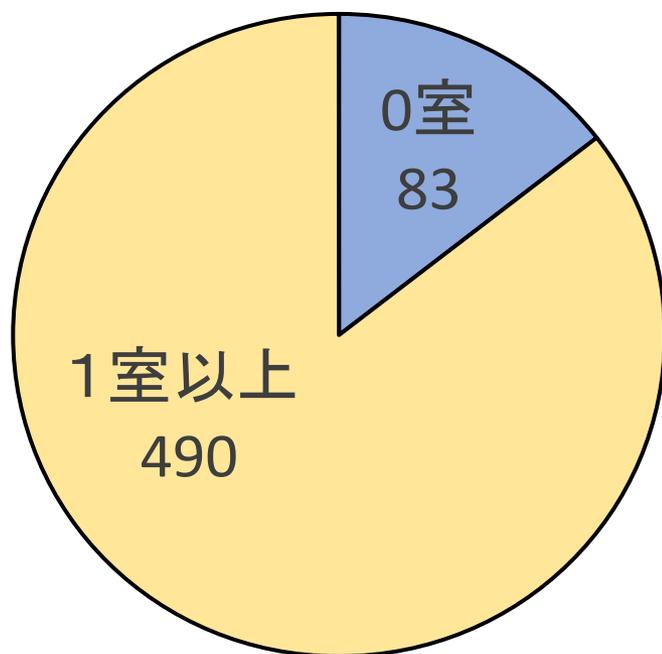
供給する木造住宅のセールスポイント
(複数回答可)



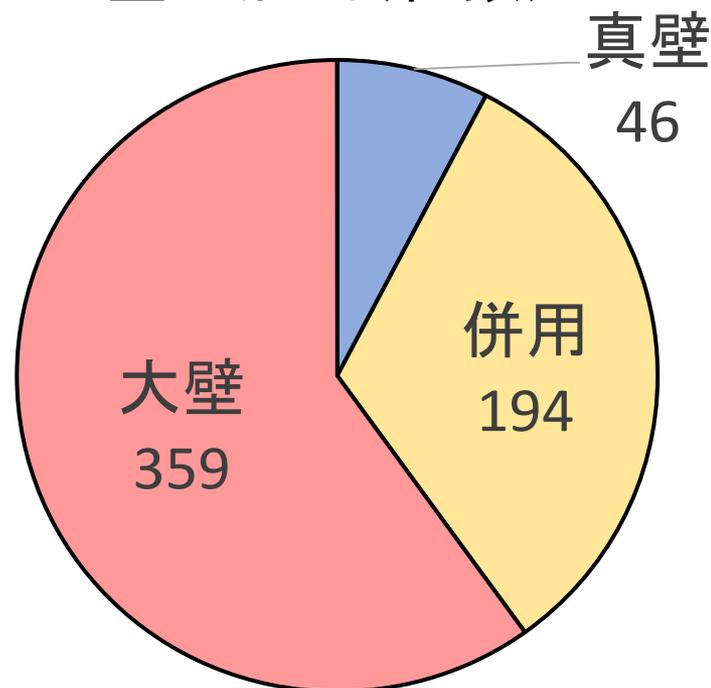
和室の有無と壁形式の関係

1室以上和室を設ける工務店は490社
しかし壁形式は「真壁」と「併用」を合わせて240社
大壁和室が半数を超えている

和室の数(社数)



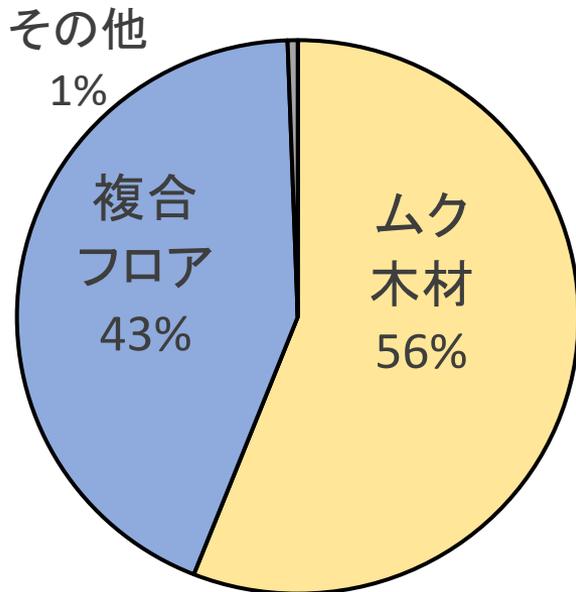
壁の形式(社数)



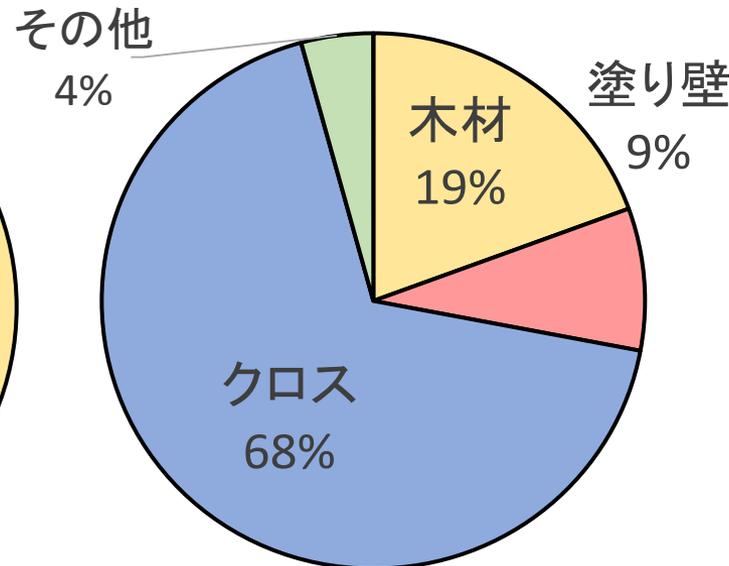
室内の仕上げ材

床については半数以上がムクの木材を使用
天井は木材、内壁は塗り壁が最も使われている

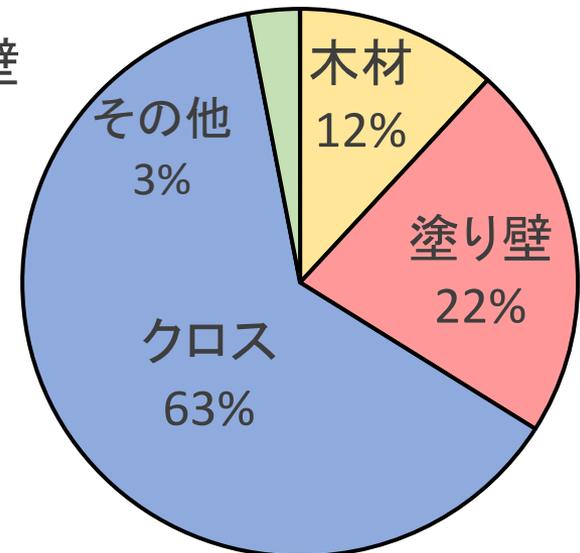
洋間の床仕上げ



洋間の天井仕上げ

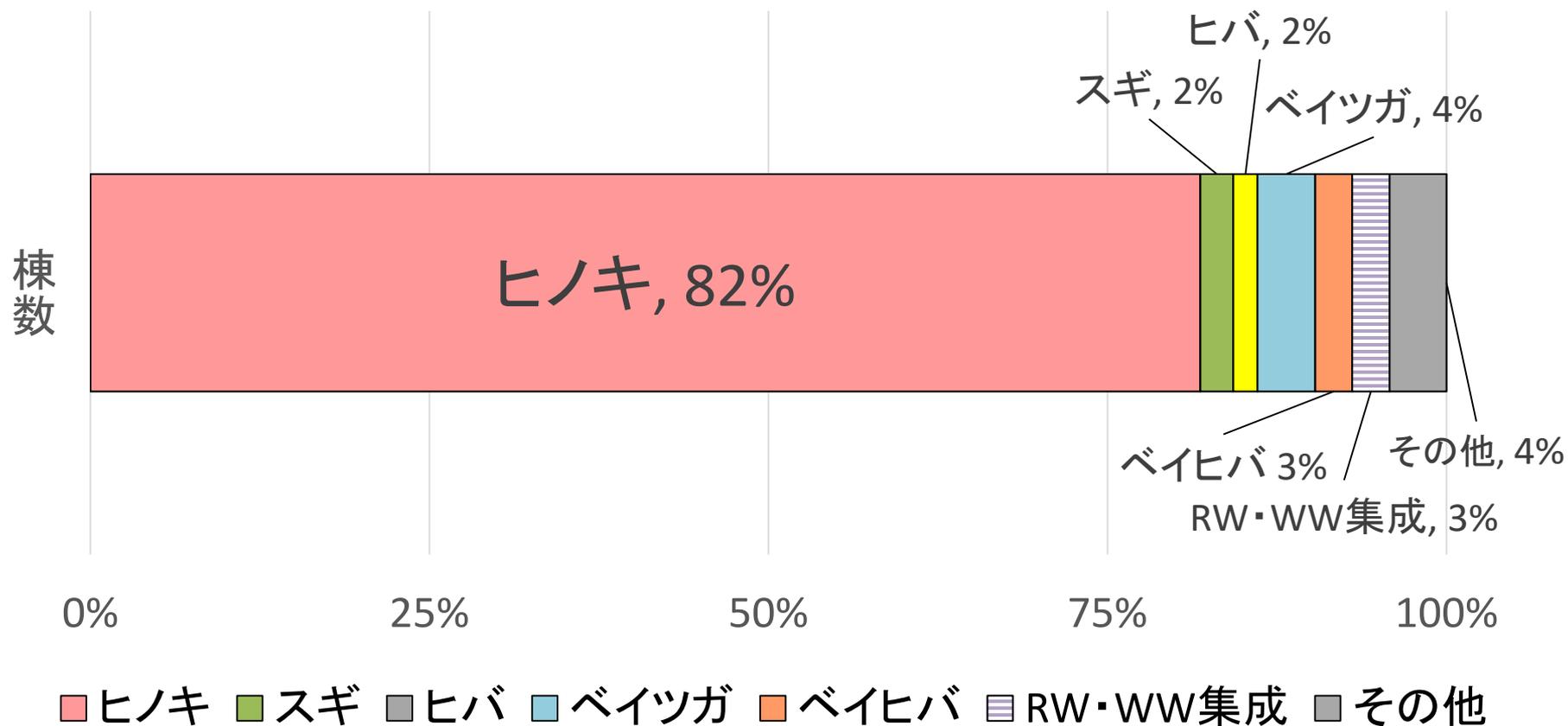


洋間の内壁仕上げ



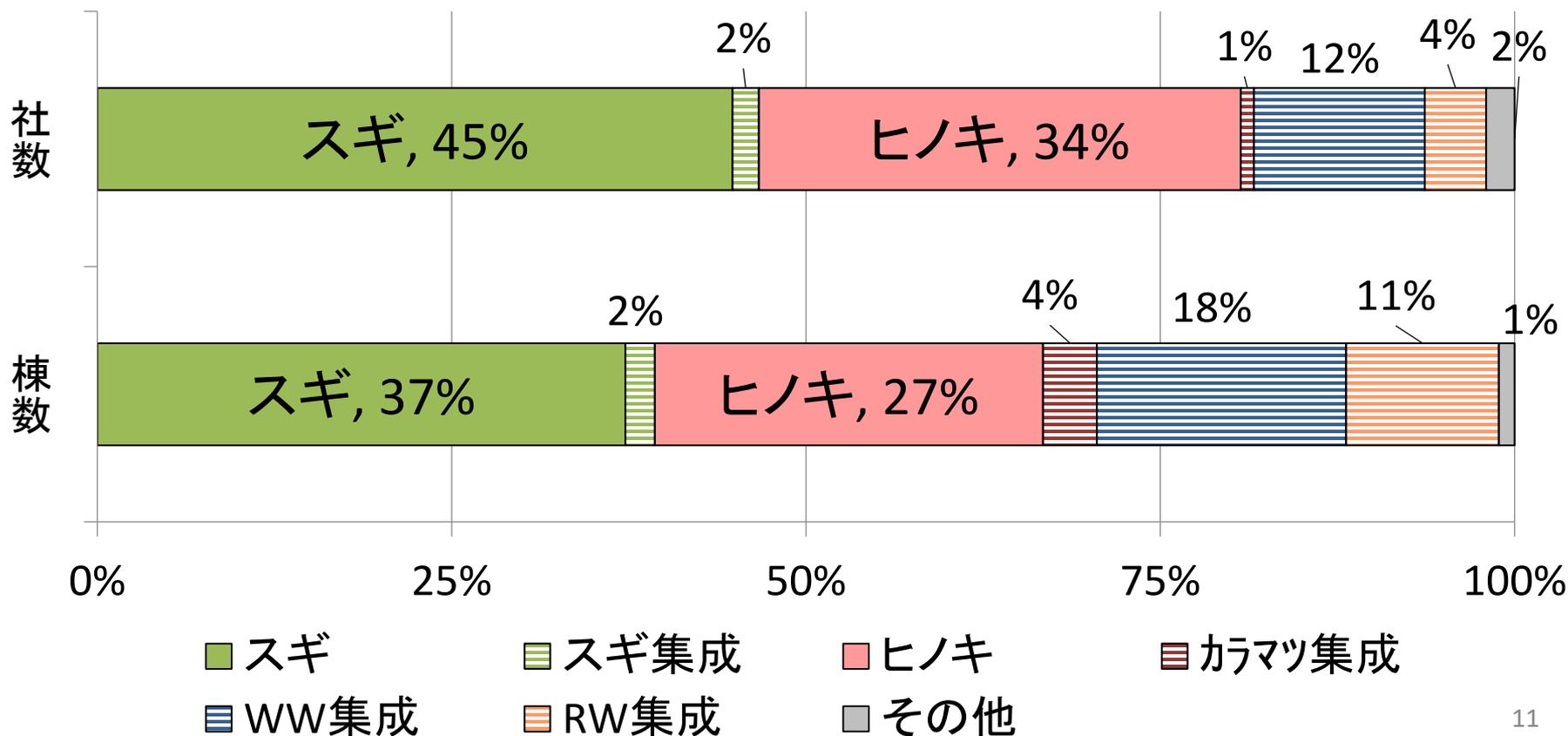
土台に使用される樹種

ヒノキが82%と圧倒的



柱に使用される樹種（見え隠れ）

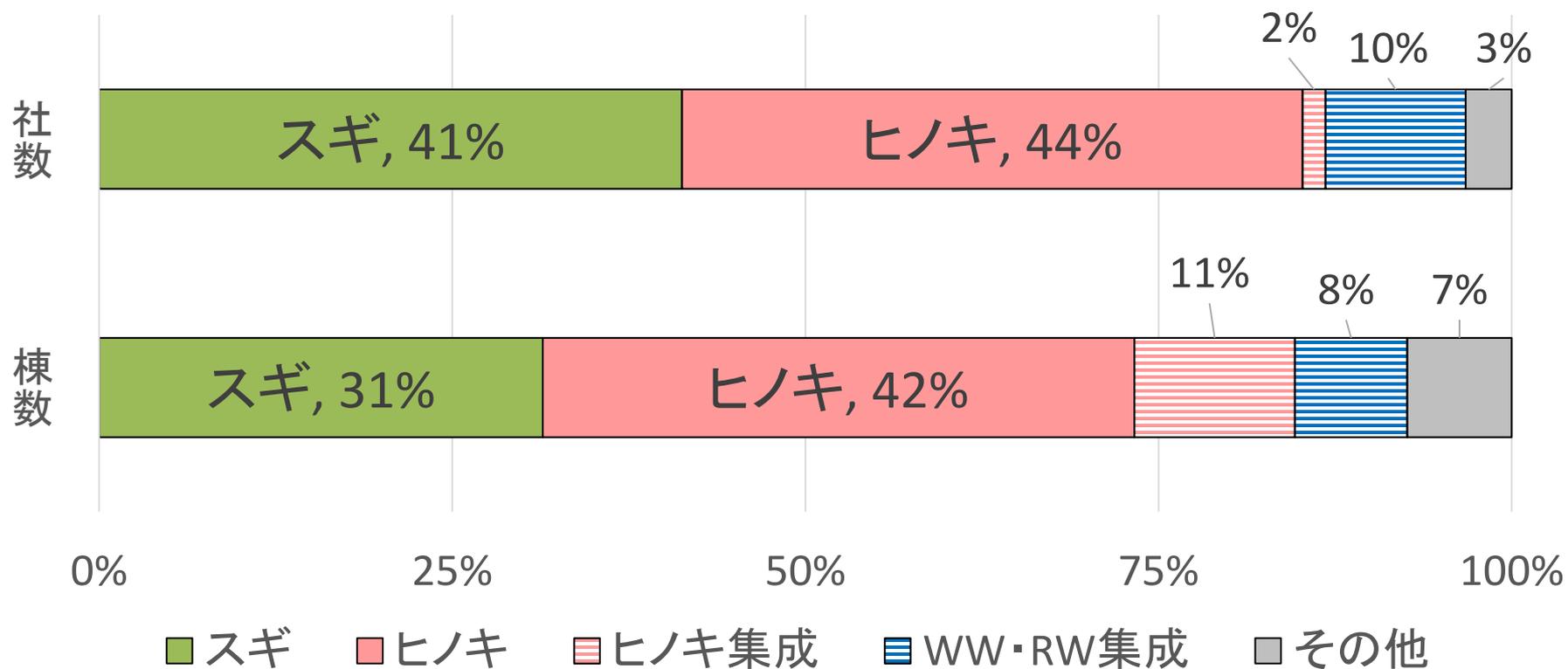
スギ・ヒノキの製材品で80%近くを占める
棟数換算だと64%となり、規模の大きい会社はWW・RWを使用



柱に使用される樹種（見えがかり）

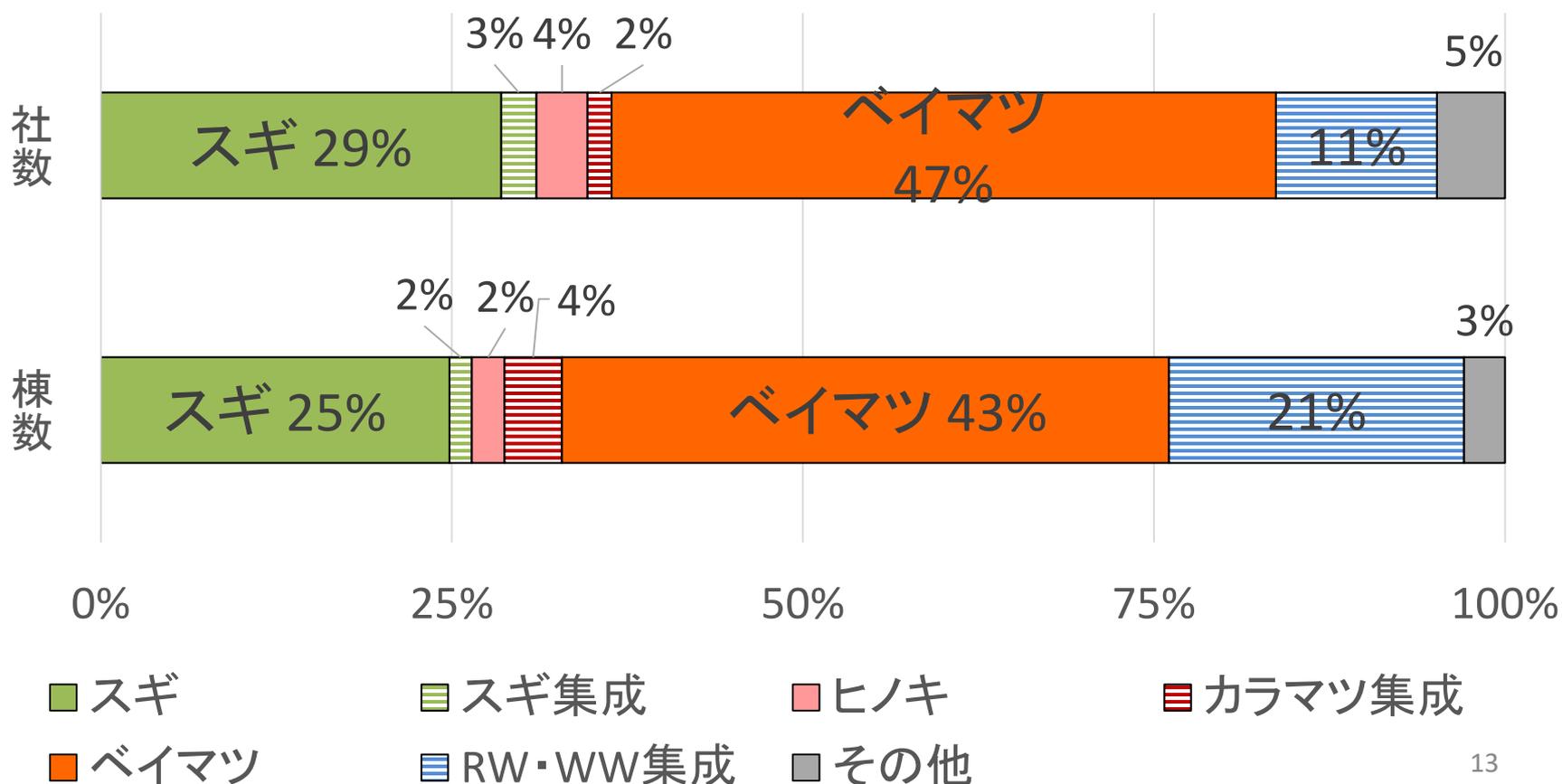
ヒノキが40%を超える

棟数換算だと「ヒノキ集成」が11%（化粧単板貼集成材？）



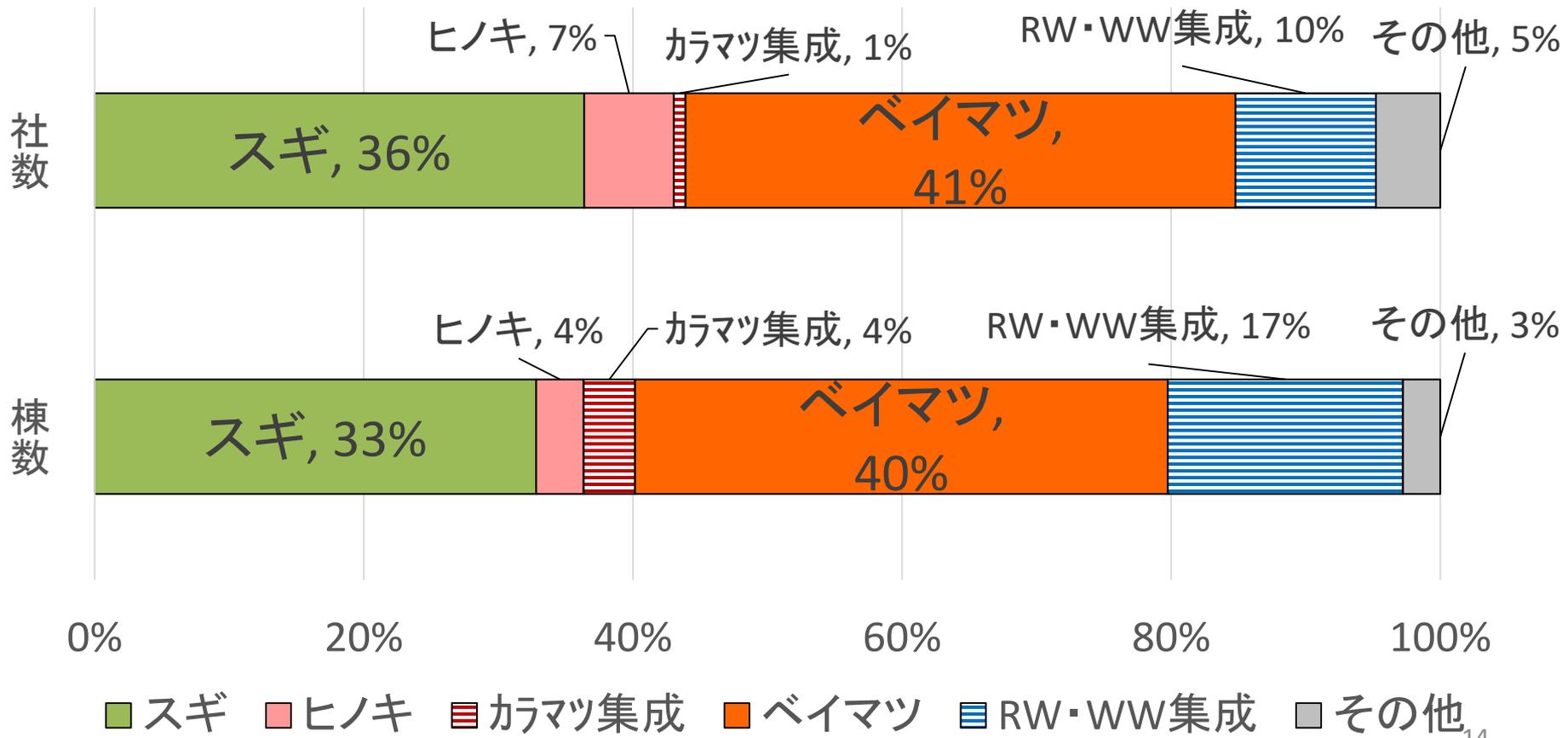
梁・桁に使用される樹種（見え隠れ）

スギ製材品が30%近いシェア
しかしベイマツがほぼ半数を占める



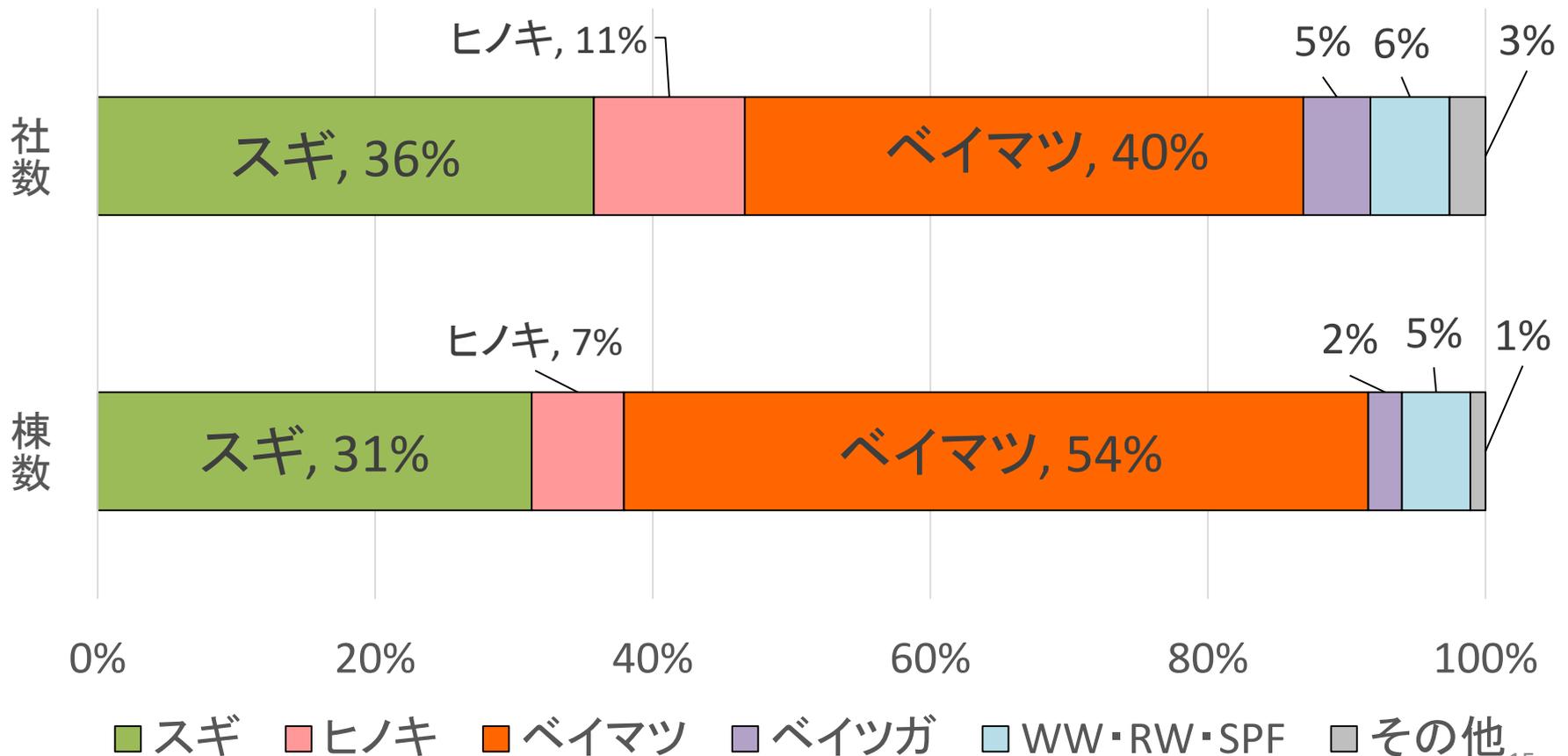
梁・桁に使用される樹種（見えがかり）

見え隠れと比較してスギが5%増。
意匠的な面での需要が伺える



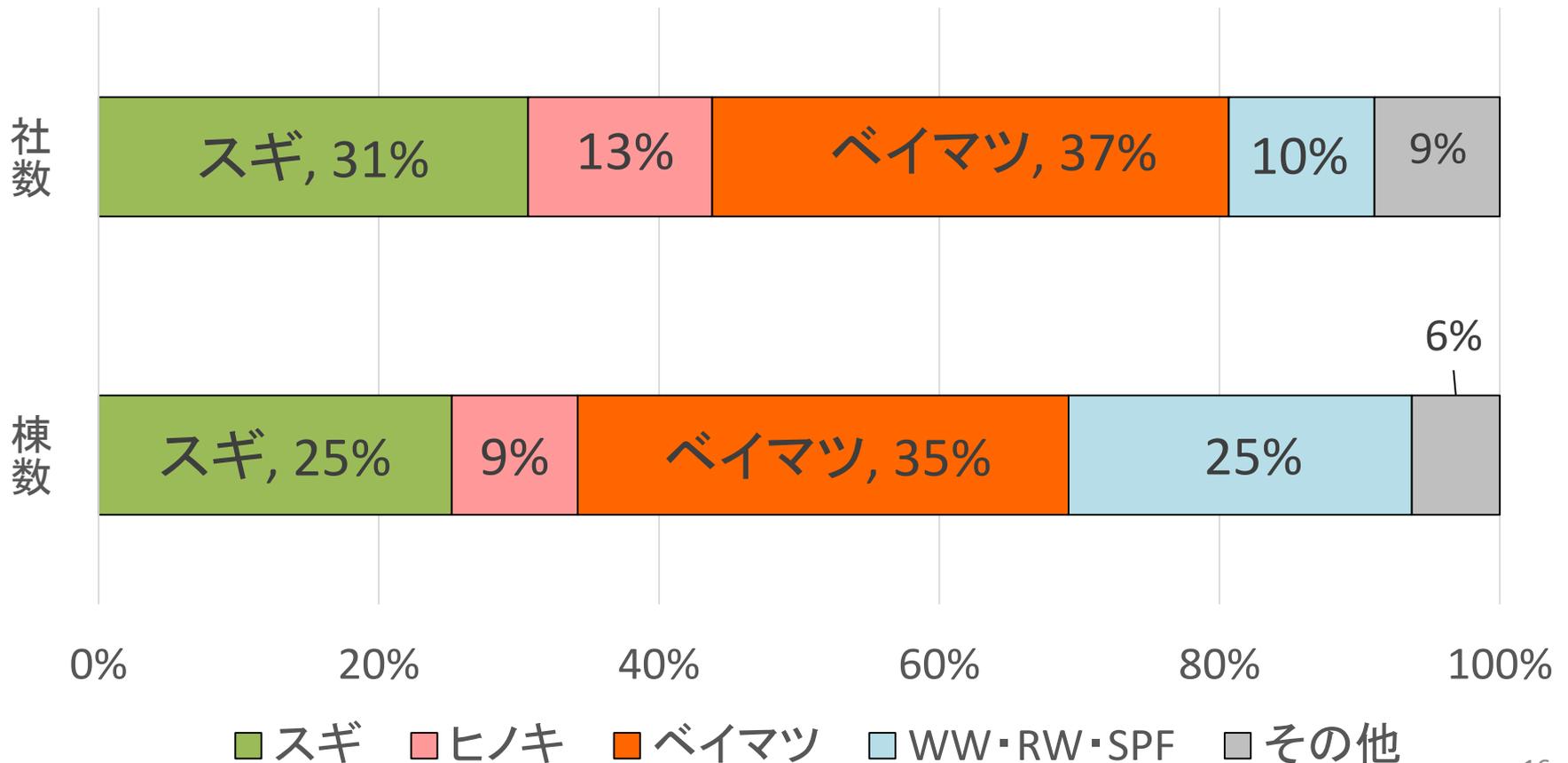
垂木に使用される樹種

社数ではスギとベイマツが拮抗するも
棟数ではベイマツが勝る



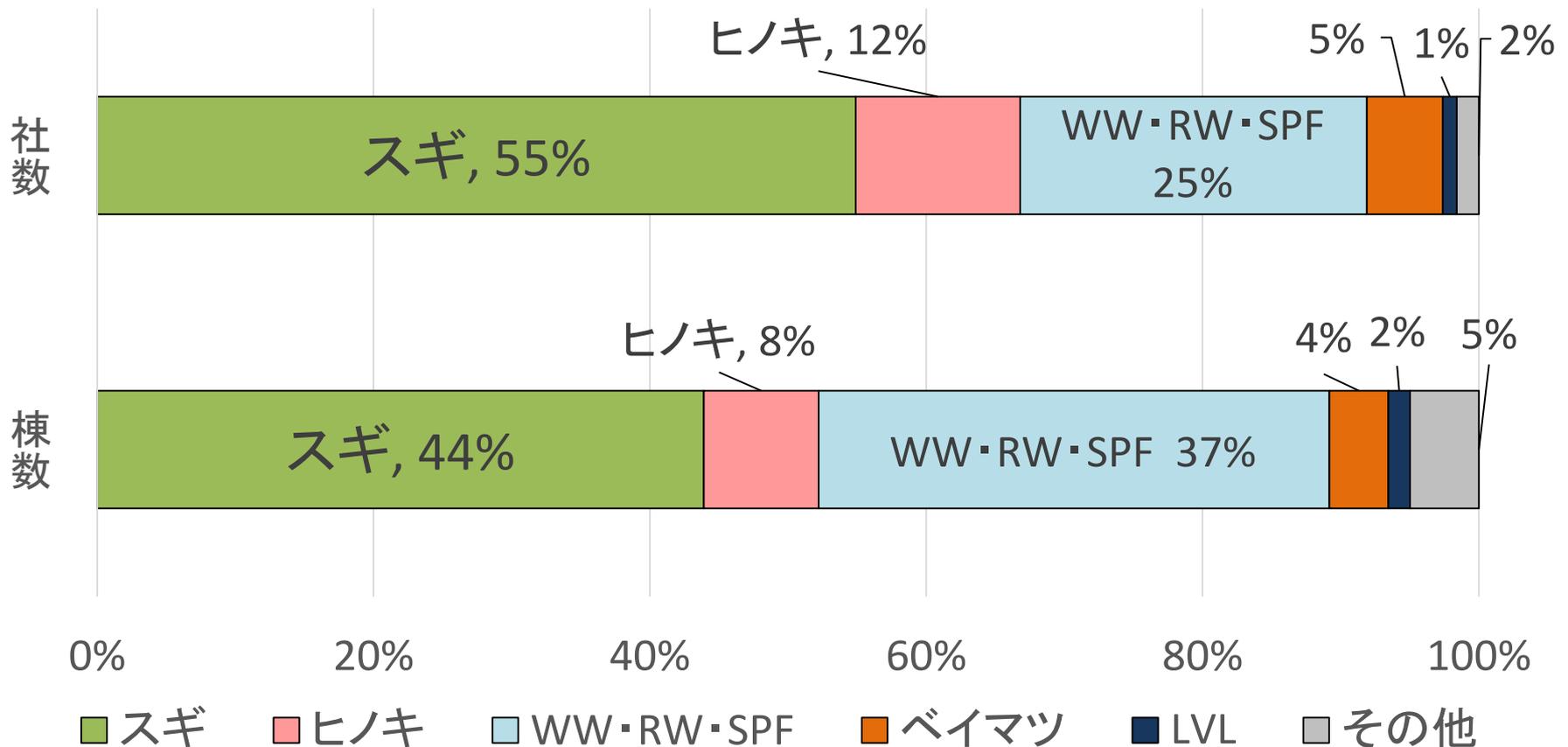
筋違に使用される樹種

主にベイマツとスギが使われている
棟数では国産材を食う形で欧州材の比率が伸びる



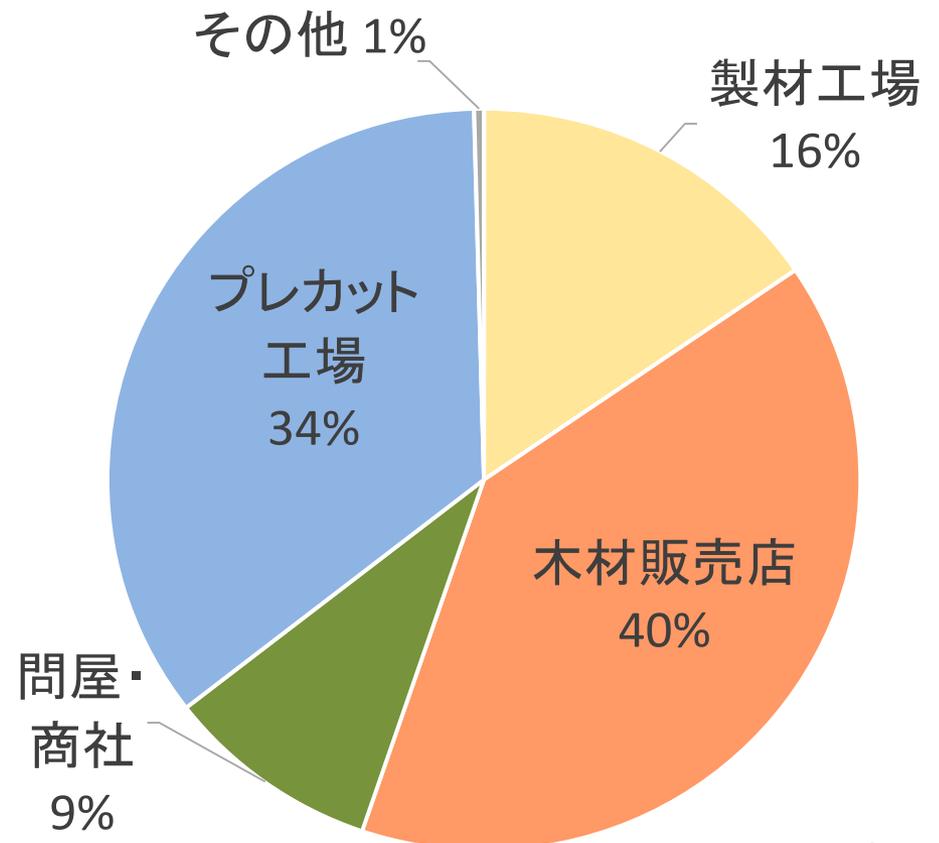
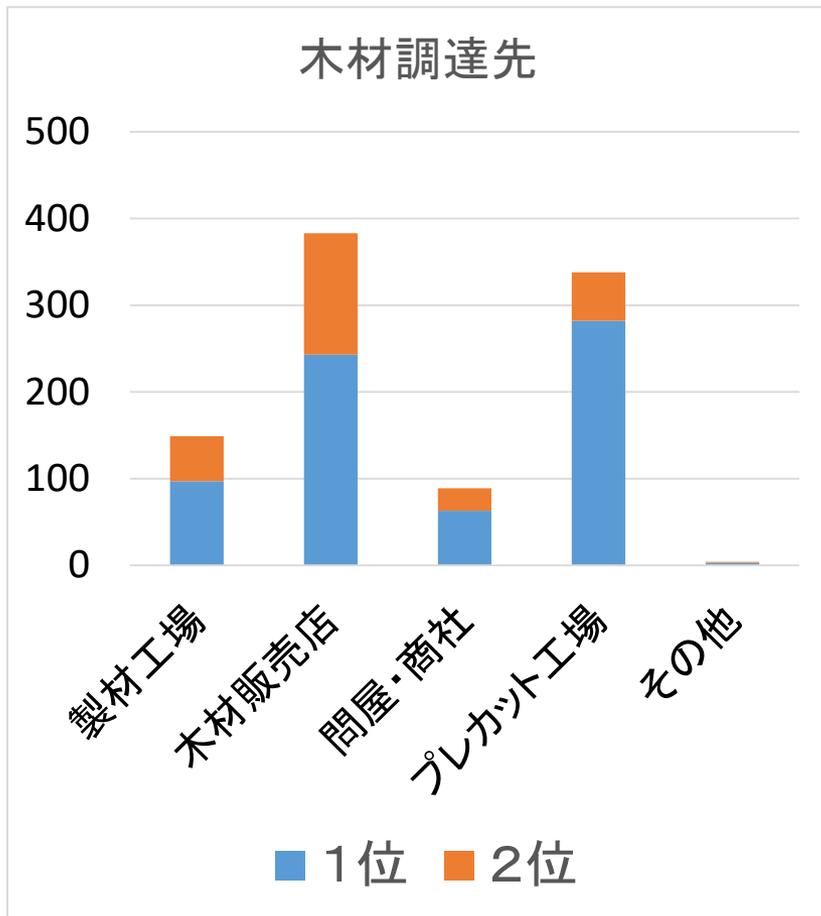
間柱に使用される樹種

垂木・筋違と比べるとスギの割合が高いが、棟数では欧州産材のシェアが高まる



木材の調達先

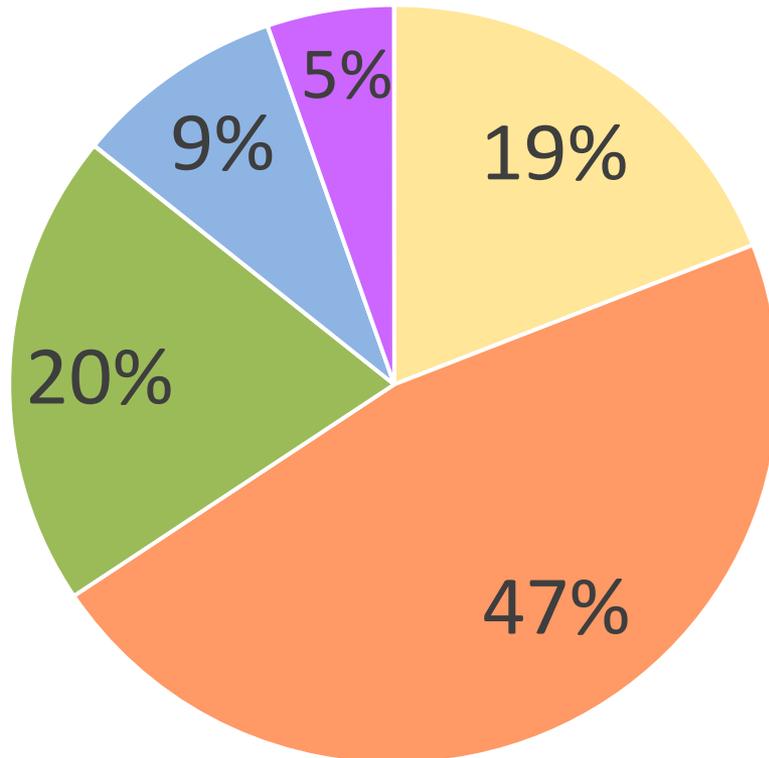
1位、2位まで含めると木材販売店がトップに。
流通における木材販売店の役割は大きい。



樹種の選択について

樹種選択に施主が介在するのは28%
施工会社としての判断が大半

貴社が供給する木造住宅の木材の選択は、
誰が行いますか

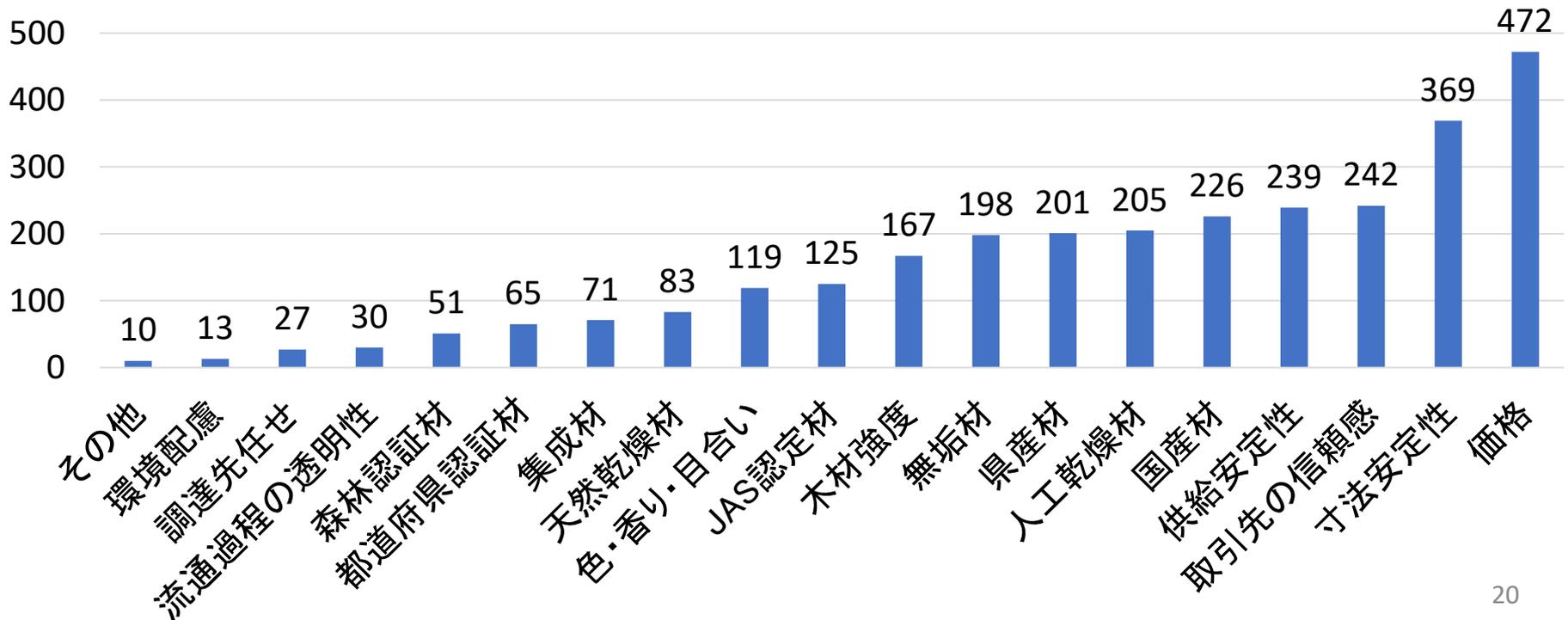


- 施主と設計士が相談して決める
- 施工者が木材調達先と相談して決める。
- 施工者が設計士と木材調達先と相談して決める。
- 施主、設計士、施工者、木材調達先の四者が相談して決める。
- その他

木材に何が求められているか(構造材)

約75%が価格を、60%が寸法安定性を重視している
取引先の信頼感も重要な要素

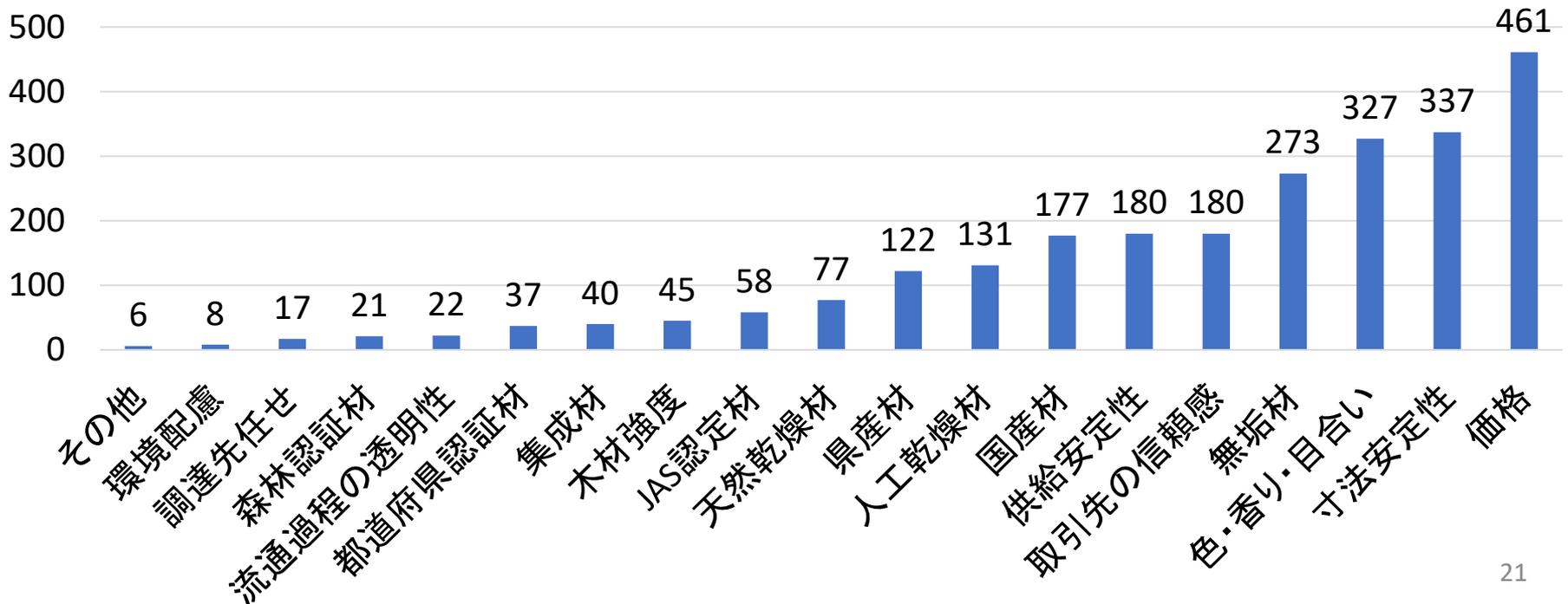
構造材・羽柄材を調達する際に意識する点
(621社・複数回答)



木材に何が求められているか(内装材)

内装材では価格、寸法安定性だけではなく、色・香り・目合いやムク材であることも重視される

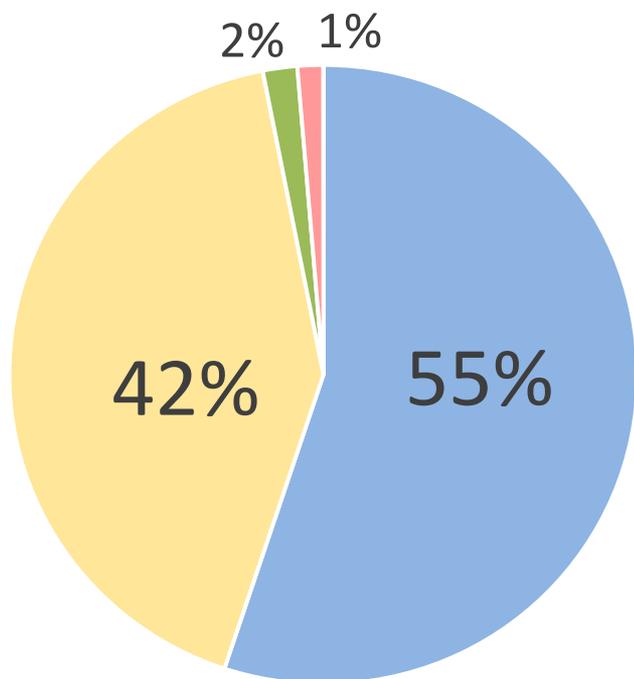
内装に使用する木材を調達する際に意識する点
(621社・複数回答)



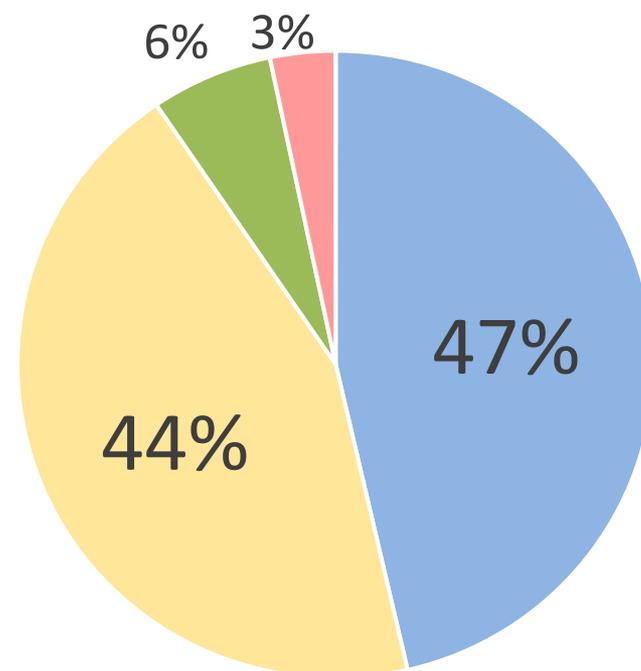
国産材の適宜適量の確保について

柱・梁桁ともに90%以上が適量入手可能と回答
工務店に対しての供給はほぼ満たされている

国産材の適宜適量の確保【柱】



国産材の適宜適量の確保【梁桁】

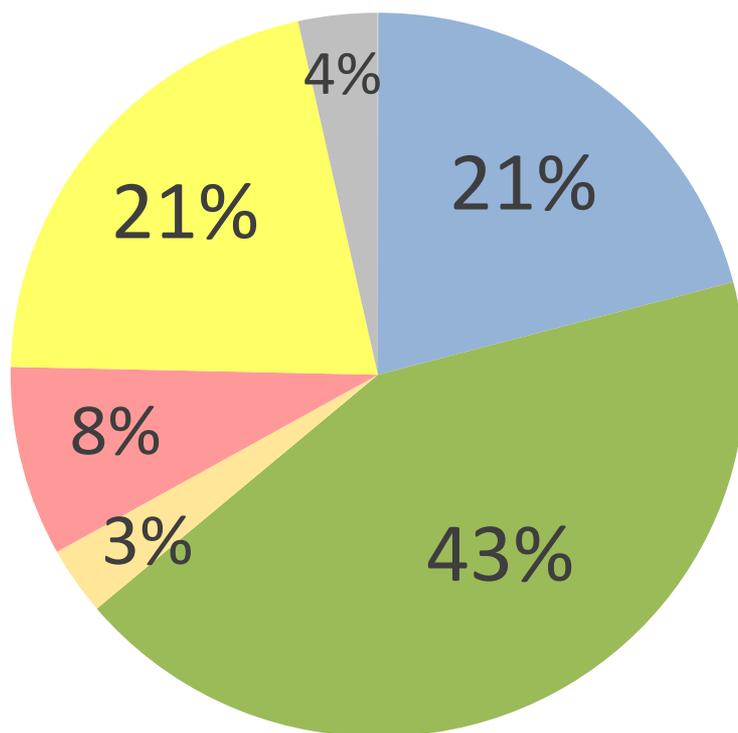


- 欲しいものはすぐに適量入手可能
- 特注物以外であれば、すぐに入手可能
- 適時適量の入手が困難である
- 欲しいものはすぐに入手できない

国産材の連携体制への取組み

既に取り組み済みが67%。「今後取り組みたい」も含めると90%を超え、非常に高い意欲が伺える

貴社では、森林所有者、製材工場、設計士などと連携して国産材による家づくりへの取り組みを行っていますか。



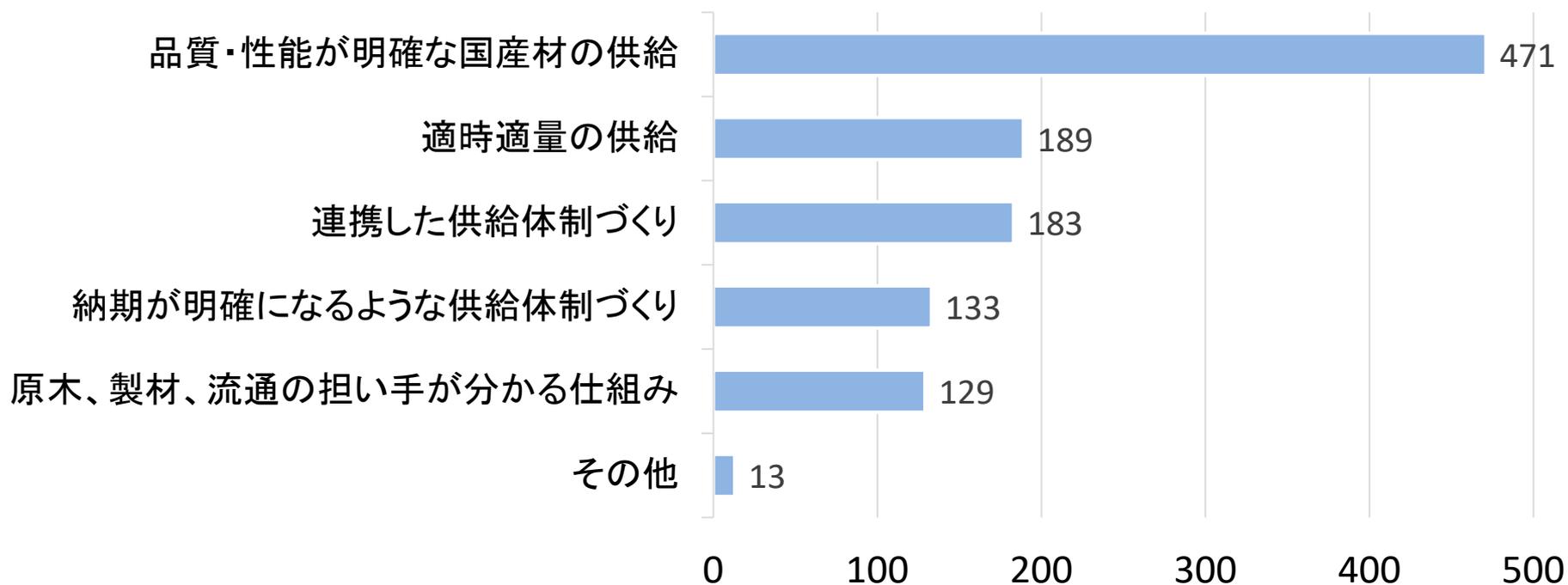
- 自社独自の取組みとして
- 地域型住宅グリーン化事業
- その他の取組み
- 今後、ぜひ取り組みたい
- 今後、できれば取り組みたい
- 興味がない

工務店が求める国産材とは

75%が「品質・性能が明確な国産材」を求めている

どのような国産材の供給を望みますか

(621社・複数回答)



まとめ

- 大手・中堅の住宅会社に比べて、地域の中小工務店では、ほぼ全ての部材において非常に高い割合で国産材製材品が使われている。現在の国産材製材品の需要は地域工務店が牽引していると言っても過言ではない。
- しかし規模が大きめの地域工務店では輸入材を採用しているケースが多く見られた。

まとめ

- 地域工務店は、それぞれの事業規模に応じた国産材の供給ルートを既に整えているところが多い。その中で木材販売店は大きな役割を果たしている。
- 地域工務店は森林所有者、製材業者等との連携に非常に前向き。それに対してどのようなマッチングが図れるかが課題。
- 「価格」を満足しつつ、「寸法安定性」が確かで、「品質・性能が明確」な木材の供給が求められている。「取引先の信頼感」が調達条件の上位に挙がる中で、森林所有者、製材業者、木材販売店は今何をすべきだろうか。

地域材住宅の今後を考えるシンポジウム

地域工務店における 木材利用実態調査報告 2

～ 横架材への国産材利用を考える ～

2016年10月12日

一般社団法人JBN・全国工務店協会

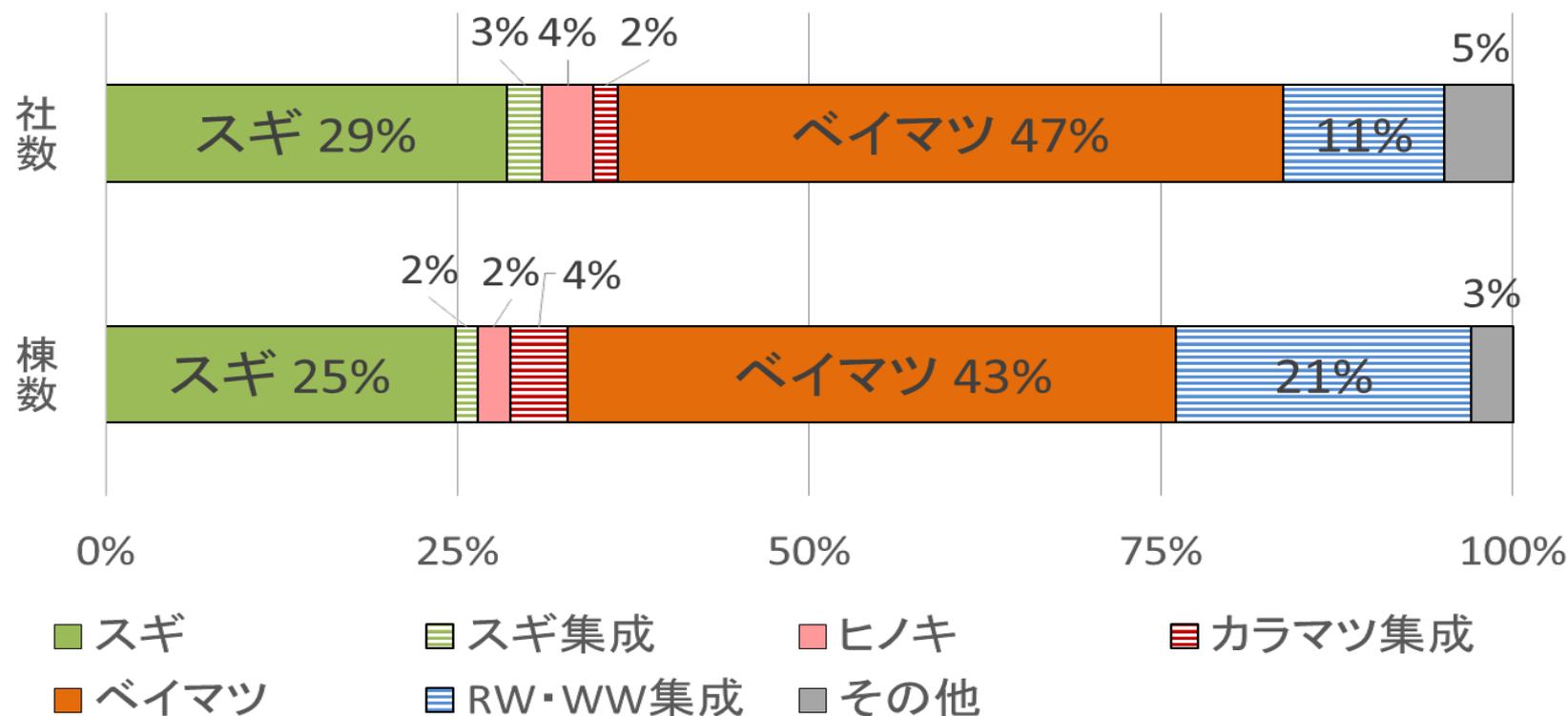
国産材委員会 委員長

(株)山長商店 榎本 崇秀

本調査の目的

前回の調査の中で、主要構造材のうち、
唯一梁・桁において輸入材が圧倒的に優位であった

梁・桁に使用される樹種(見え隠れ)

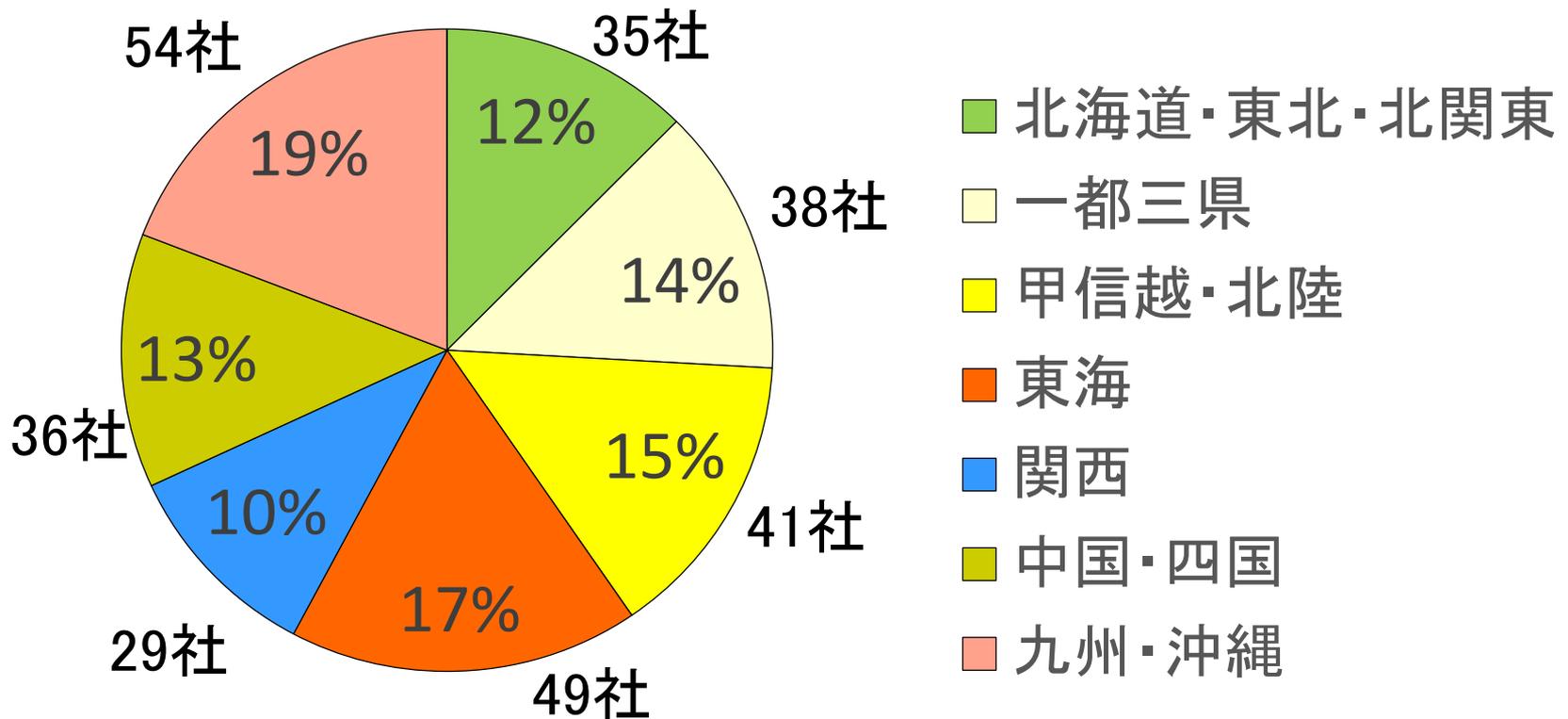


本調査の目的

- 横架材（梁・桁）の材積が主要構造材の約半数を占める。
 - 横架材への国産材利用が、更なる利用拡大に向けた重要な課題となる。
- ⇒ 前回アンケートに回答頂いた621社に、再度横架材の利用状況に関するアンケートを送付し、その結果をもとにその方策を探る。

調査対象の概要（地域別回答分布）

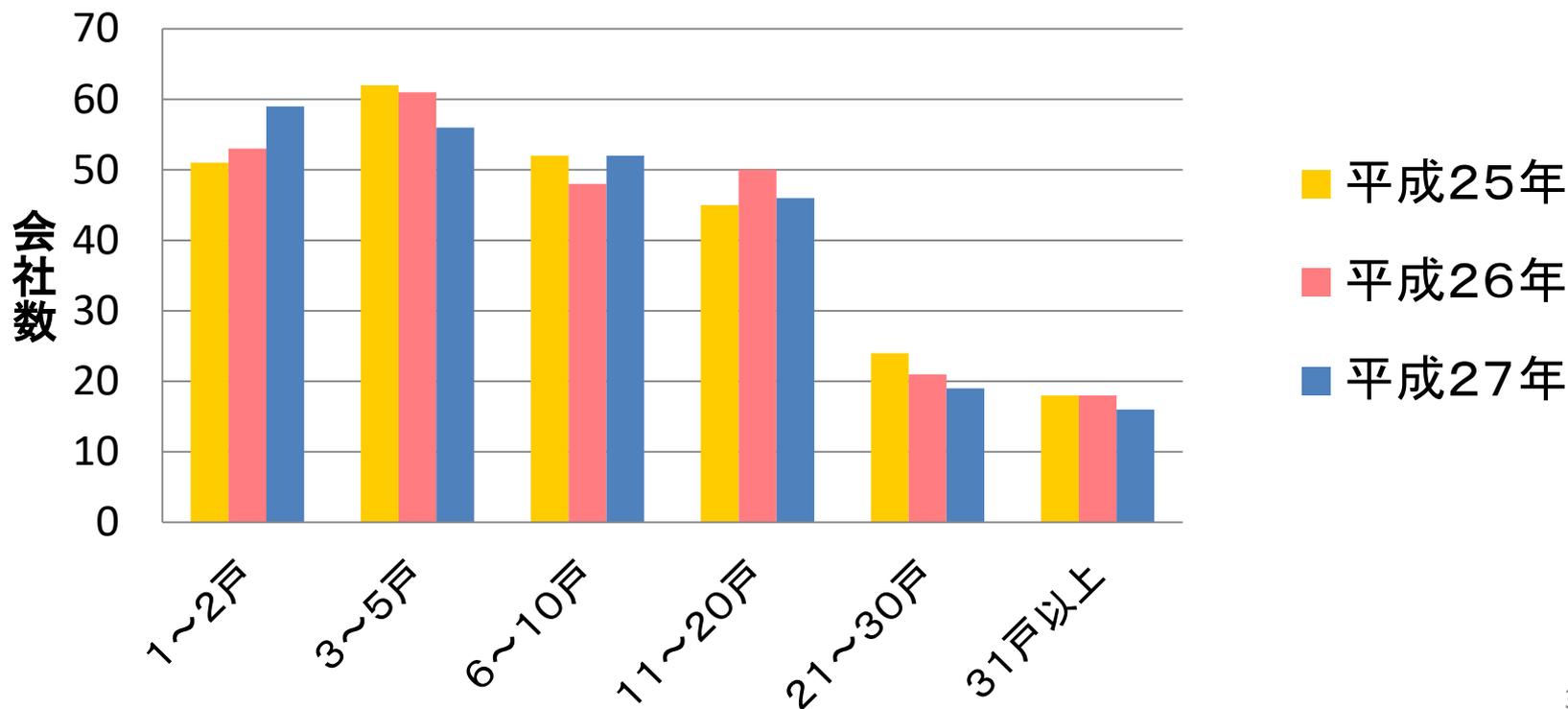
JBNと木青連会員621社にアンケートを送付
うち282社より回答。回答率は45.4%



調査対象の概要（建築実績）

建築実績が年間1～10戸の会社で67%。
1～20戸の会社で86%を占める。平均値は11.0戸

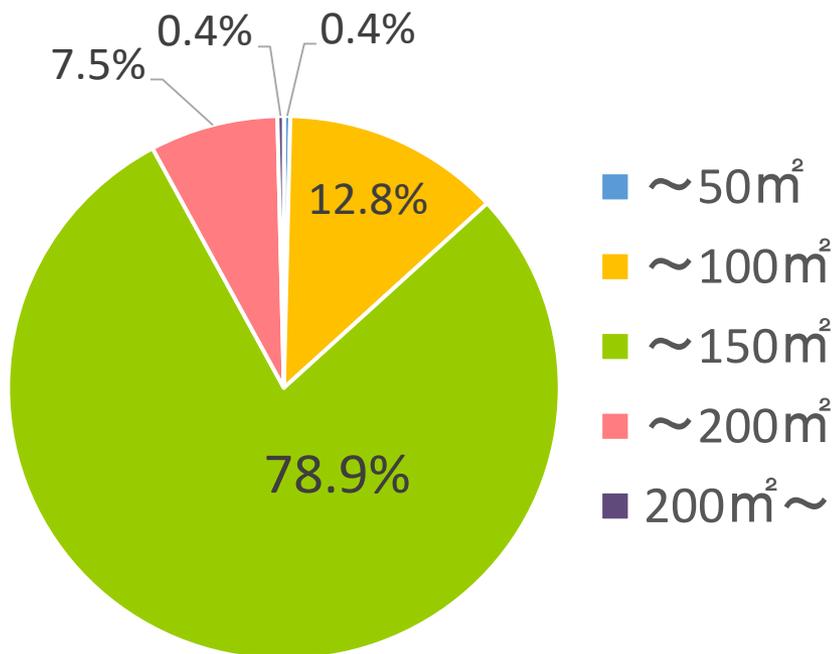
最近3年間の供給戸数【在来軸組工法住宅】



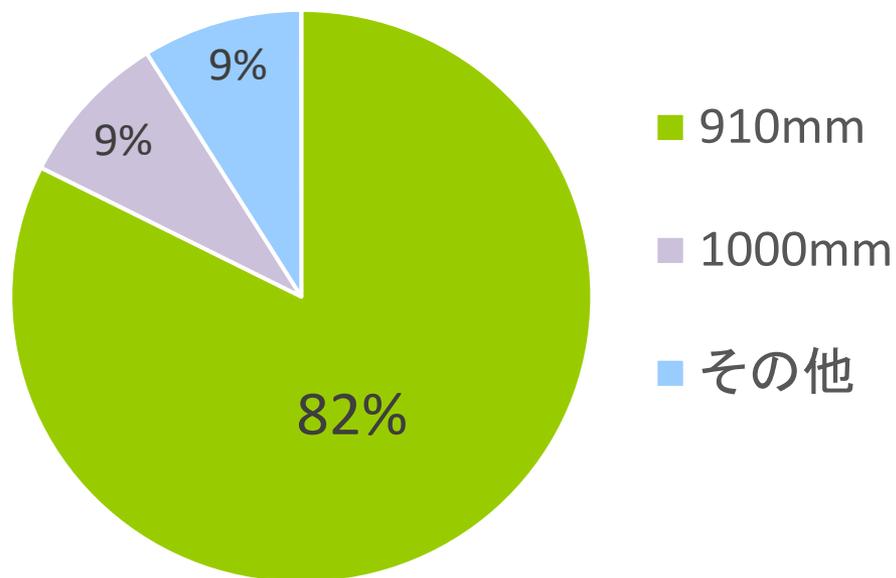
調査対象の概要（延床面積・モジュール）

面積の平均値は122m²（37坪）
82%が910モジュールを採用

延床面積

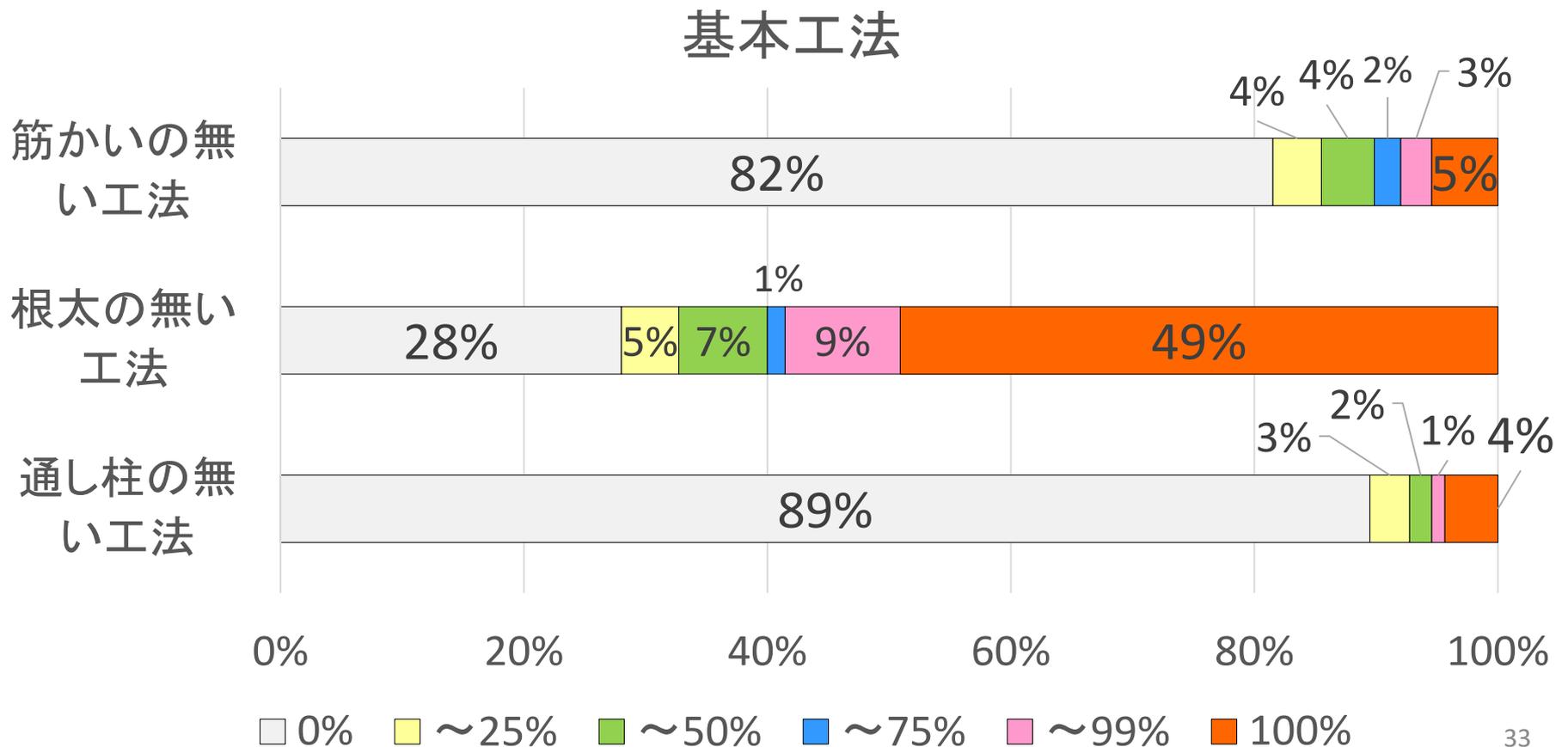


採用モジュール



調査対象の概要（工法）

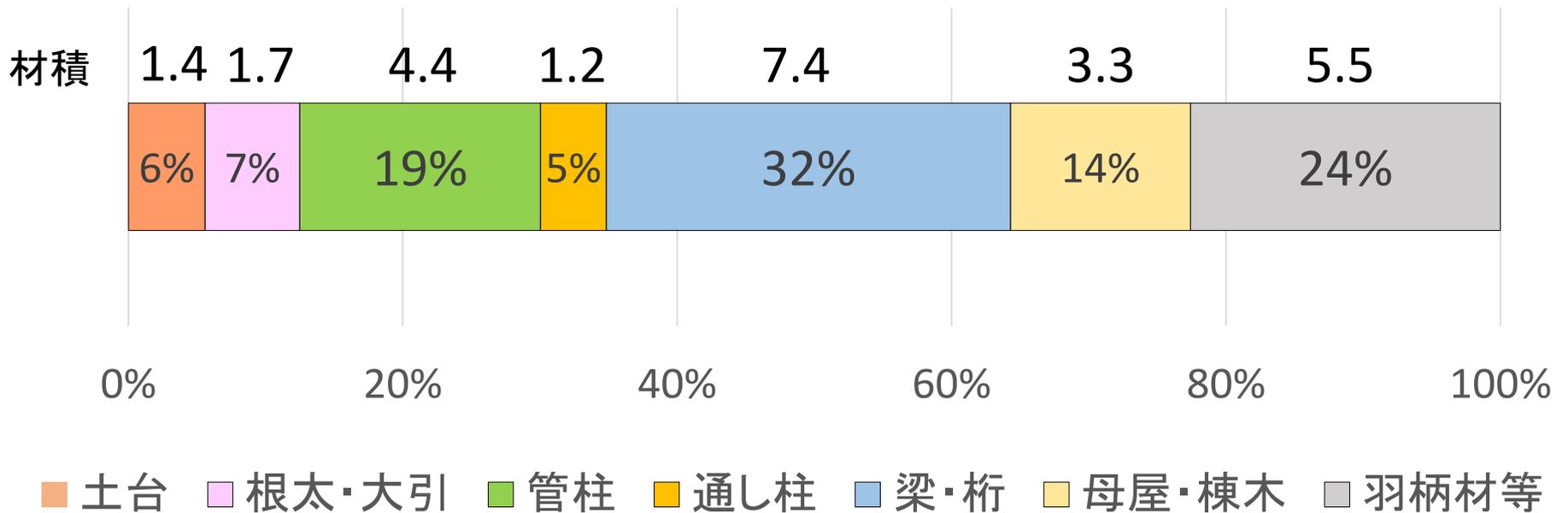
根太レス100%の工務店が49%
筋違レスや管柱のみの工法は一部にとどまる



調査対象の概要（木材使用量）

梁桁・羽柄材・管柱の順。
全体の使用量の平均は23.3m³

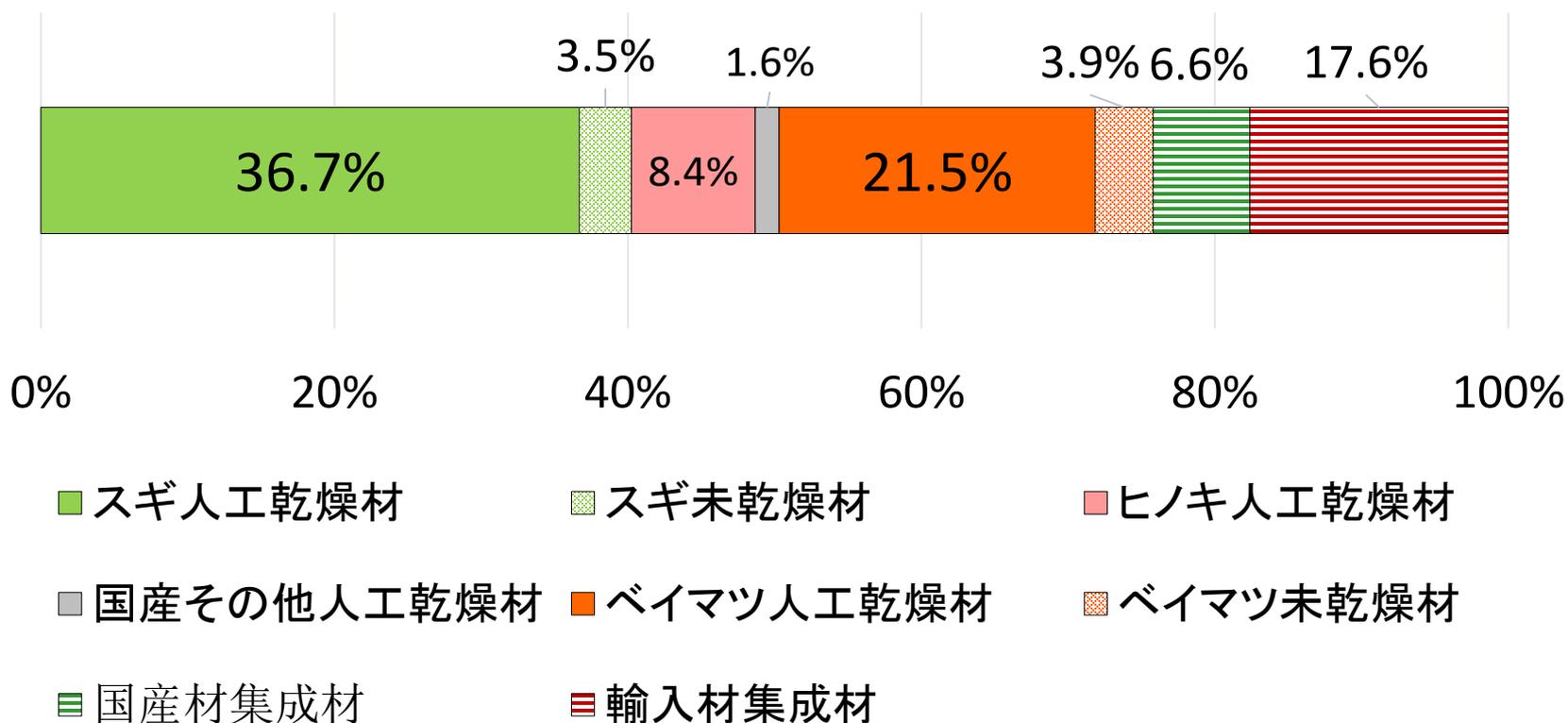
1戸当たりの部材別木材使用割合



横架材の使用樹種

スギKDが36.7%でトップ。ベイマツKDがそれに続く。
この結果はかなり斬新

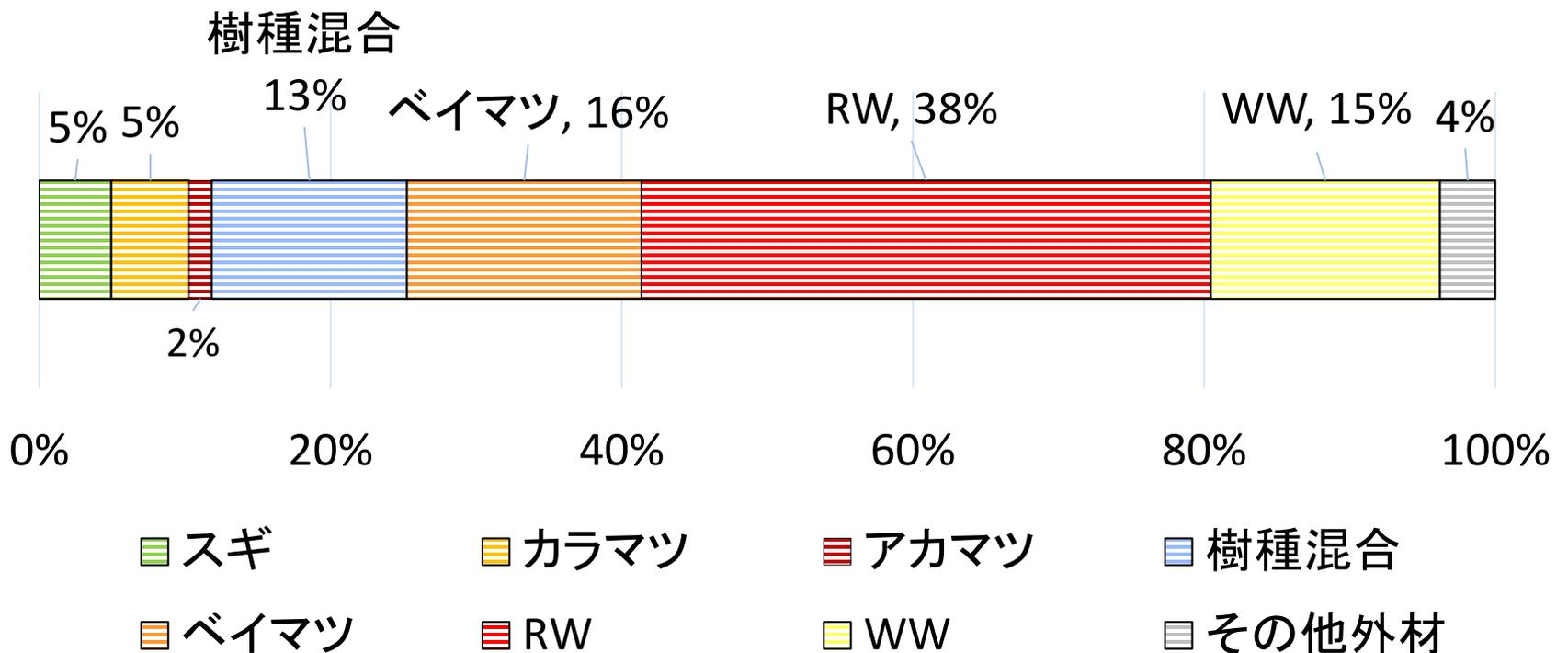
横架材使用樹種(供給戸数・材積ベース)



横架材の使用樹種

集成材ではRWがトップだが、
樹種混合がWWに迫る勢い

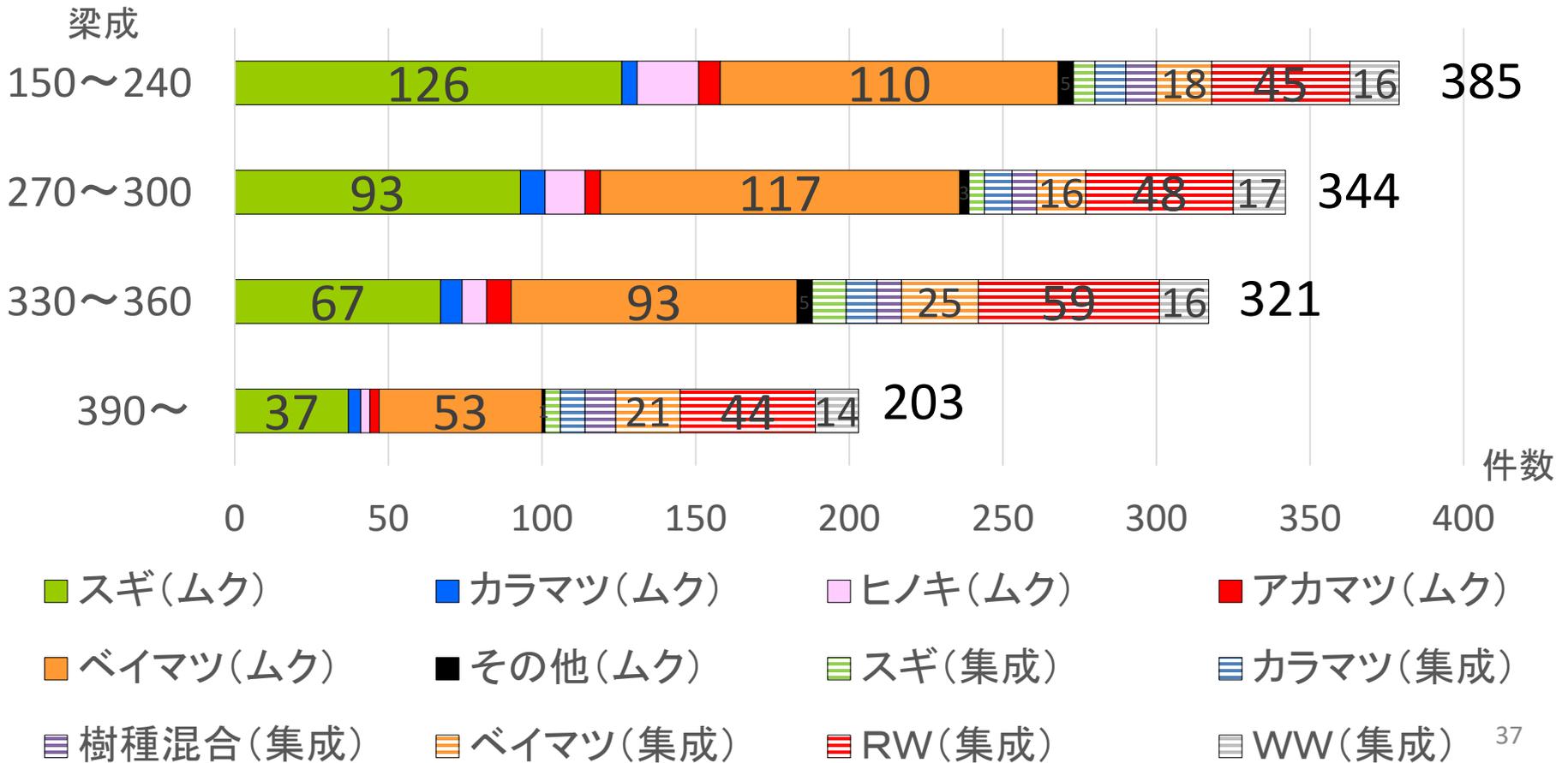
横架材のうち集成材使用樹種



横架材の使用樹種(2~4m材)

梁成が大きくなるにつれて減少率が大きい樹種と少ない樹種に差異が見られる

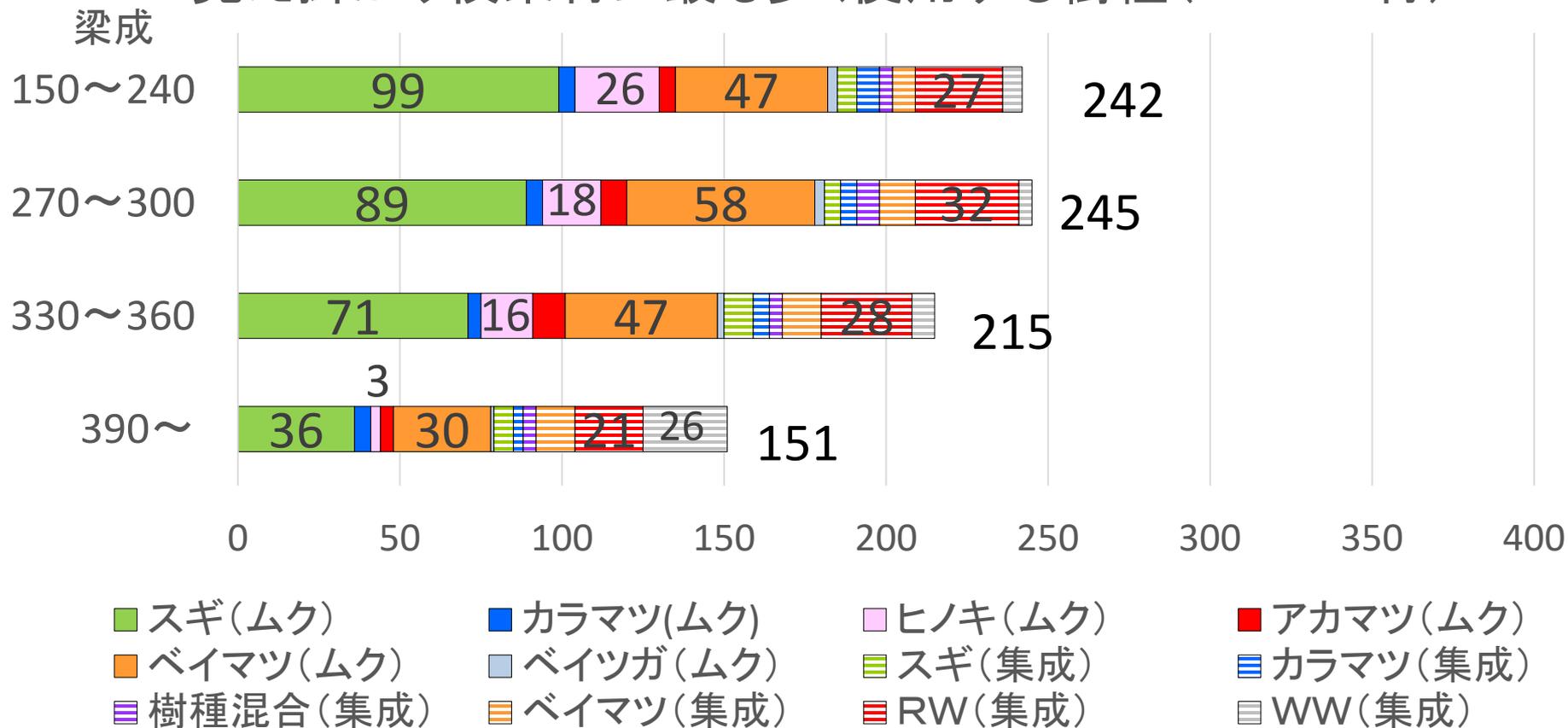
見え隠れ横架材に最も多く使用する樹種(2~4m材)



横架材の使用樹種(2~4m材)

見え隠れと比較しての減少率はスギが最も少ない

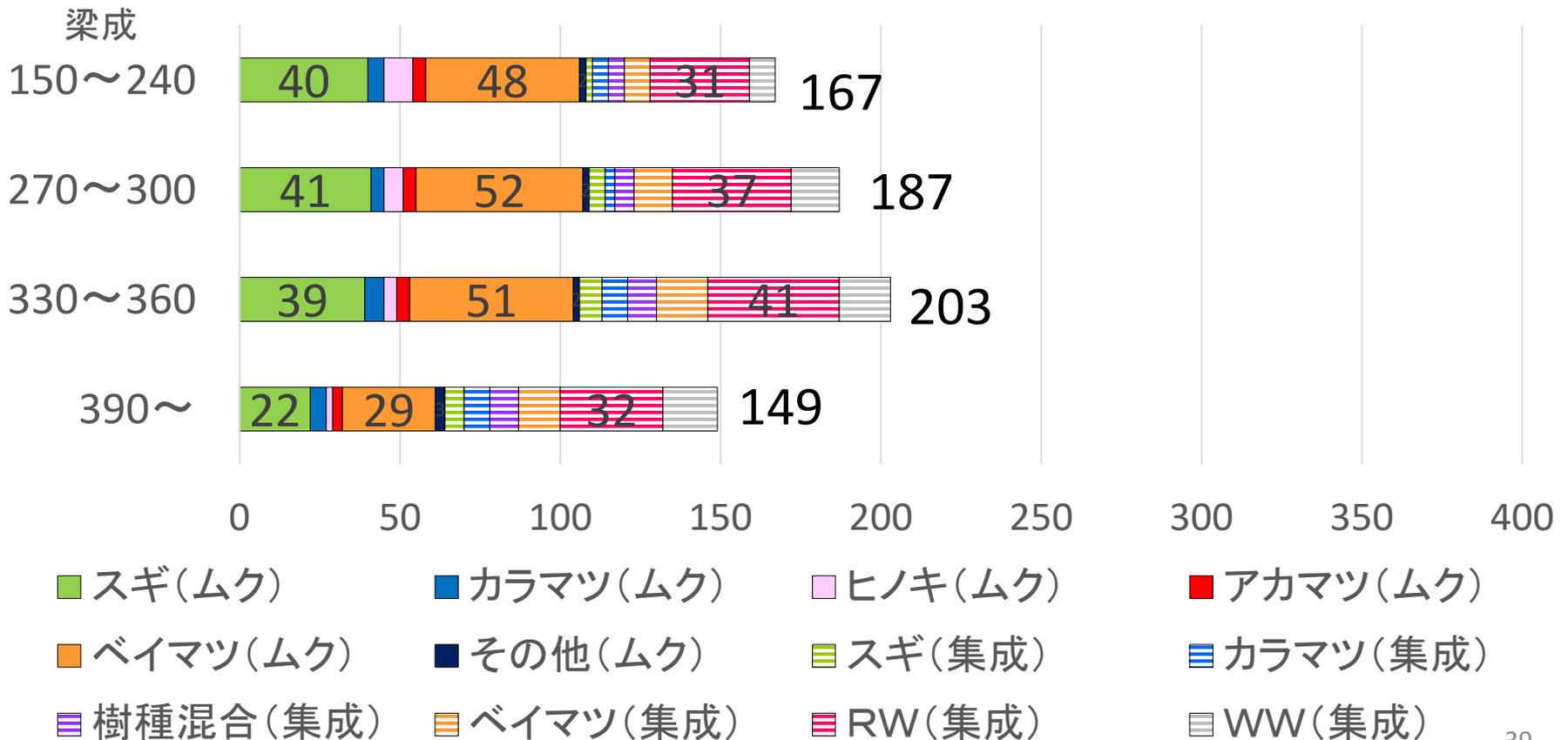
見え掛かり横架材に最も多く使用する樹種(2~4m材)



横架材の使用樹種(6m材)

6mになると集成材の比率が高くなり、それは梁成が大きくなるほどさらに高まる。

見え隠れ横架材に最も多く使用する樹種(6m材)



横架材の使用樹種(6m材)

2~4mのケース以上に、
スギは大壁材(見え隠れ)と比較してほとんど減らない

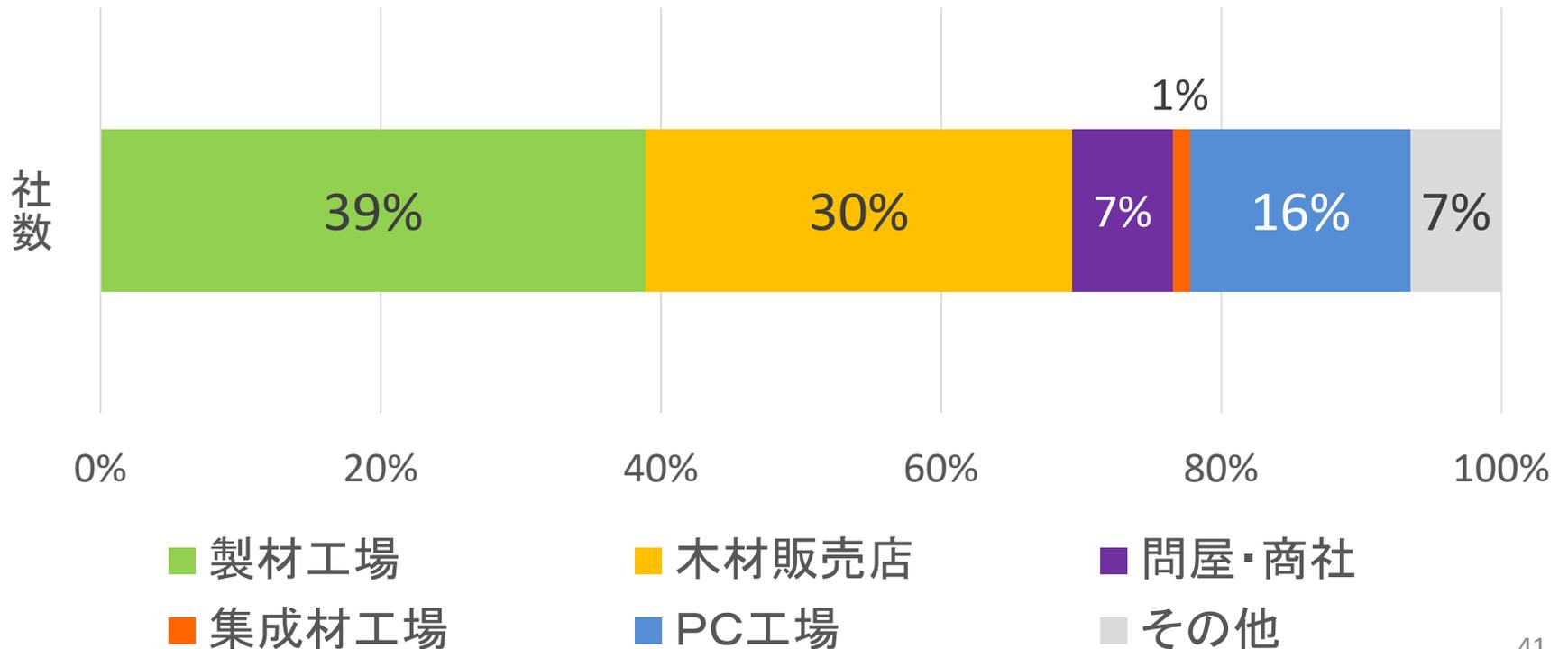
見え掛かり横架材に最も多く使用する樹種(6m材)



横架材の購入先

製材工場と木材販売店で69%を占める

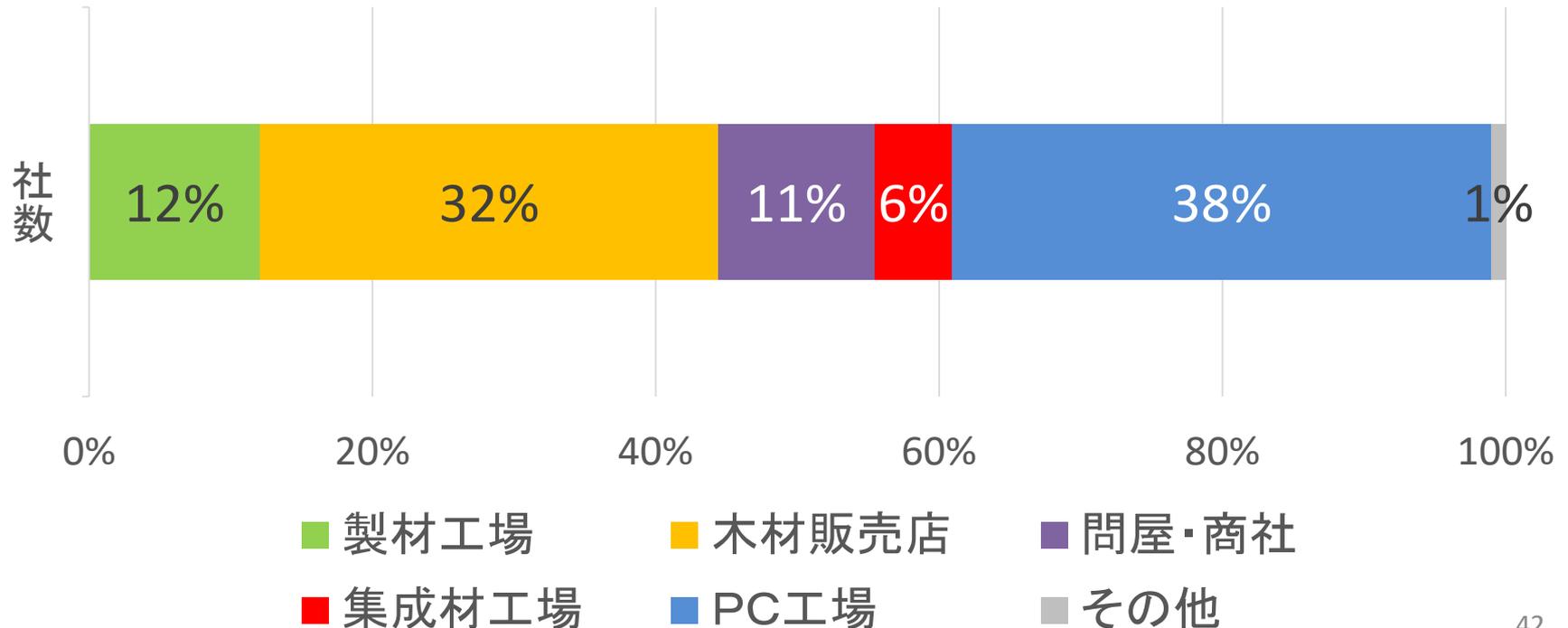
横架材の購入先
(国産ムク材)



横架材の購入先

プレカット工場が38%を占めるが
むしろ木材販売店が全体的にフォローしているのが伺える

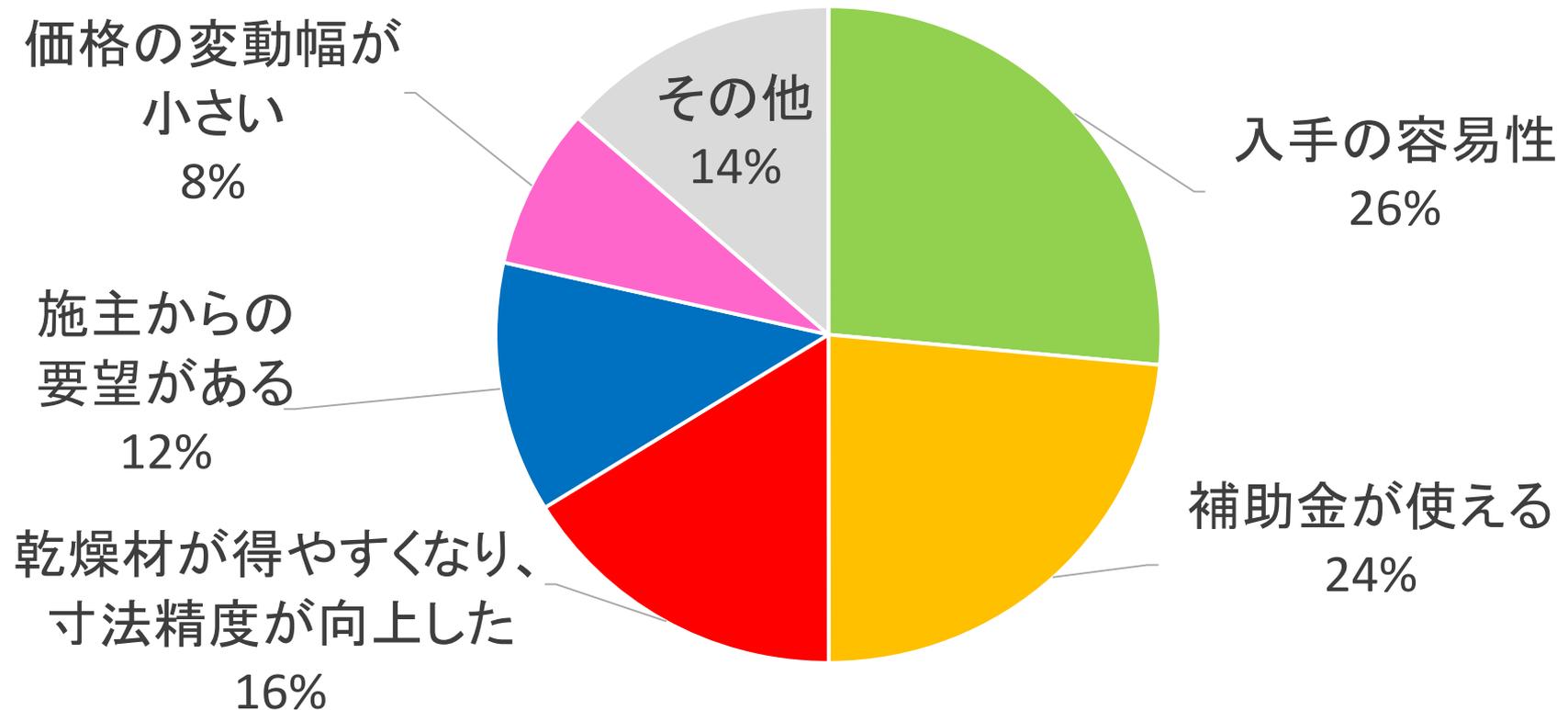
横架材の購入先
(国産ムク材以外)



材料選定の理由(国産材製材品)

寸法精度の向上や施主の要望等、プラス意見もあるが、補助金は依然大きな動機のひとつとなっている。

横架材に国産材製材品を使用する理由



材料選定の理由(国産材製材品)

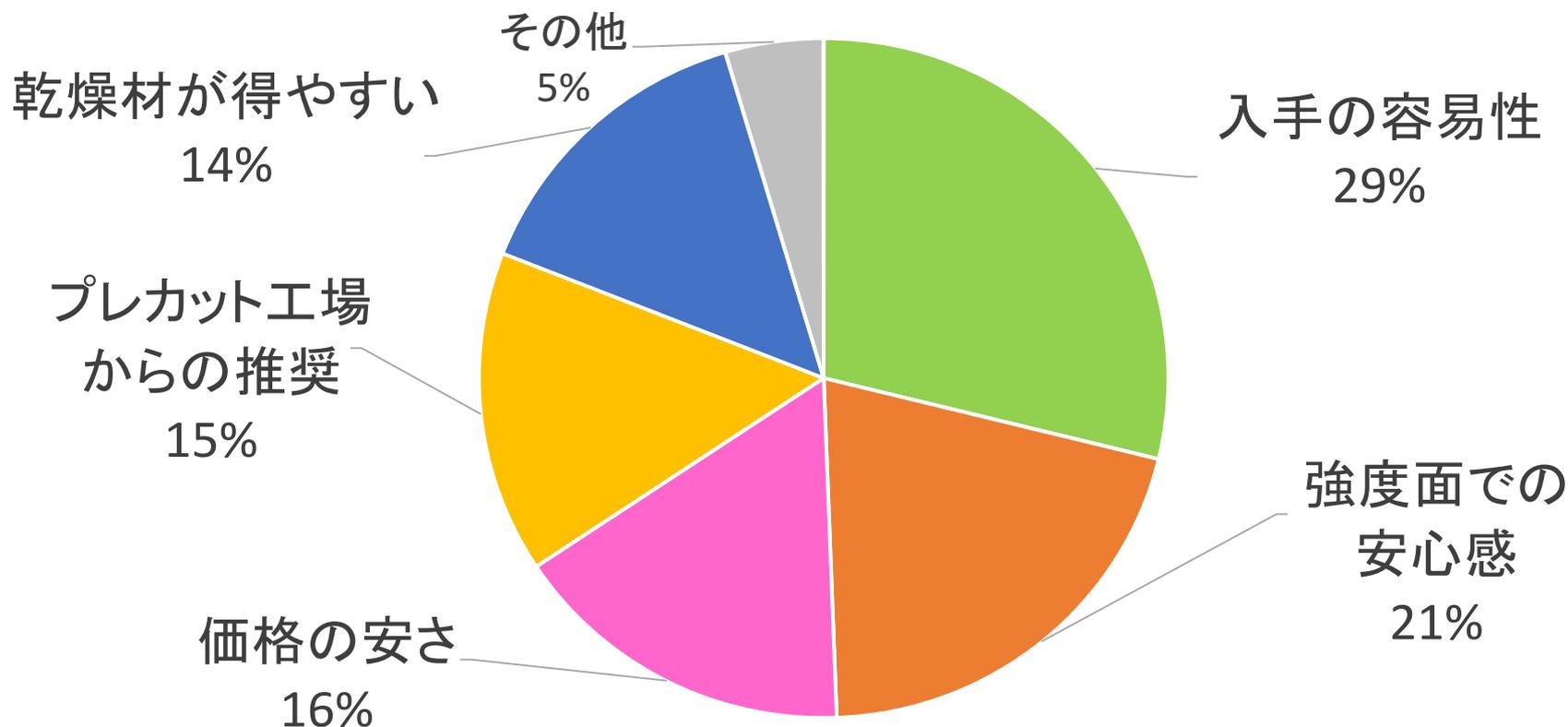
「その他」意見から抜粋

- 製材工場を経営している。地元材を活用し、営業にも活かしている。
- 地産地消の考え方を元に行っている
- 地域経済への貢献
- 色つやが良かった。香りが良い。暖かみがある。
- 国内林業を支えるため
- 品質の良い材木が手に入る。林業を守る
- 会社のポリシー
- 値段が合う時には施主も喜ぶので。
- 国産材の声が多くなってきた。

材料選定の理由(外材ムク製材品)

やはり価格と強度面の安心感は強い

横架材に外材ムク製材品を使用する理由



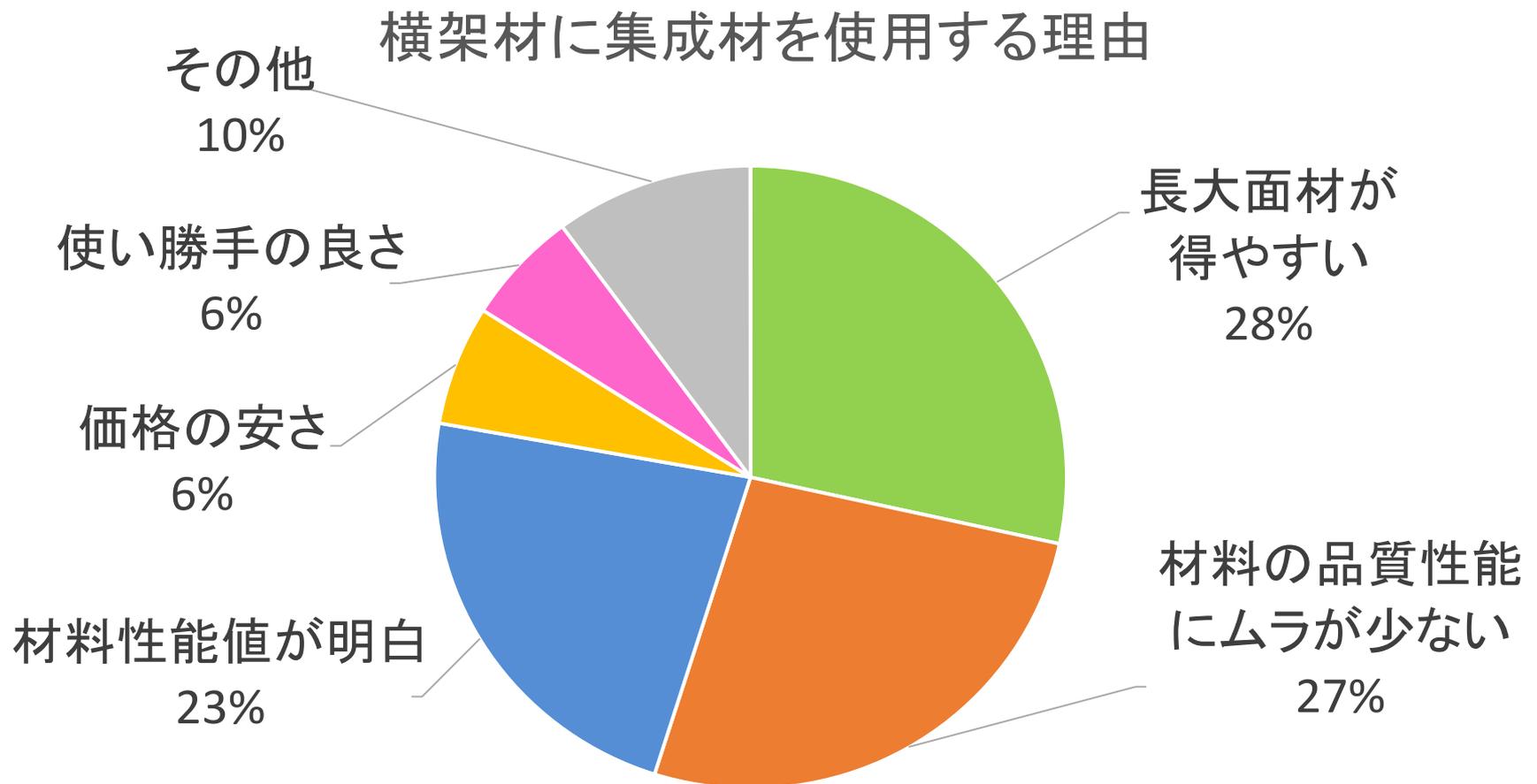
材料選定の理由(外材ムク製材品)

「その他」意見から抜粋

- 強度面での安心感
- 加重負担が大きい場合にスポット的に採用
- 木材販売店からの入手の容易性
- 構造計算数値に安心
- 今のところパフォーマンスバランスが良い
- 職人養成工務店なのでムク材にこだわりたい

材料選定の理由(集成材)

集成材の性能的な面が大きく支持されている



材料選定の理由(集成材)

「その他」意見から抜粋

- 大スパン又は強度を必要とするところに使用する。
- ムク材(国産)に比べて良い
- 梁成を低くするとき使用
- 構造上やむを得ない時だけ使う。
できれば使いたくない。
- 品質が良い。強度も明確。クレームも少ない。
- 材の伸縮、割れの少なさ。
- 強度が均一化できている。

まとめ

- 今回の調査では、結果として横架材においてもスギ製材品が最も使われているということになったが、回収されたアンケートが元々スギを多用している工務店に偏った可能性があり、実情よりも過大な結果となった可能性は捨てきれない。
- しかし、横架材の長さや梁成による樹種選択の結果では、長さや梁成に対して金額が相関関係にある国産ムク材の弱みが明らかになった。

まとめ

- とはいえ、構造材現し(見え掛かり)でのスギの人気は長尺材においても根強いことも確認でき、意匠性の高さも示された。
- プレカット加工率が88%となった現在でも、国産材に限らず、木材販売店が工務店の使う木材全般を扱っているケースが30%にのぼる。工務店に求められる仕事が多様かつ高度になりつつある中、いわゆる「木材のソムリエ」とも言えるような木材販売店等が、工務店の方向性に合った木材の情報を的確に提案・啓発することを通して、国産材等の流通がさらに活性化することを期待したい。